

産業 機械

No.891

January

1

2025

特集

「いのち輝く未来社会の産業機械
〜人と社会の共存をめざして〜」



さまざまな分野に **MIKUNI**

MIKUNIグループのテクノロジーは、さまざまな産業分野に役立っています。



世界に誇る **MIKUNI** 品質

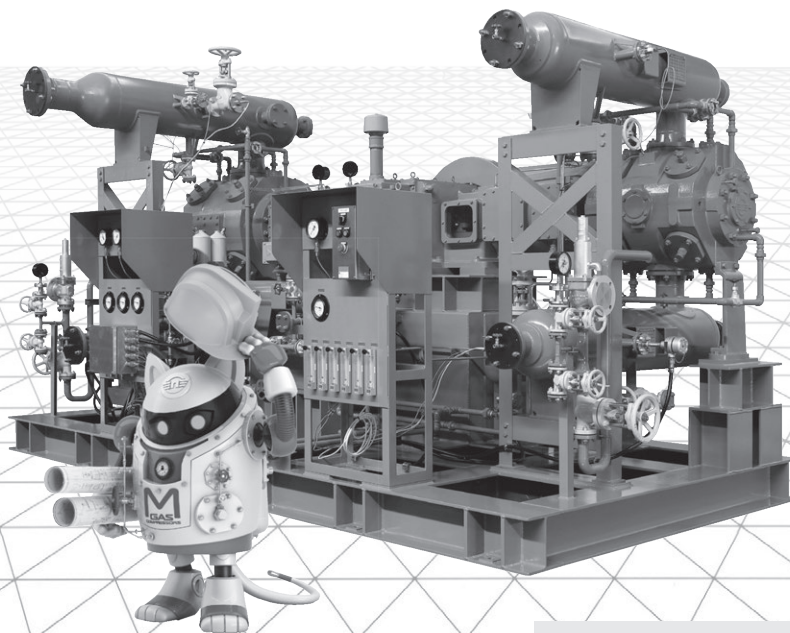
MIKUNIの品質管理体制は、
技術開発から生産、納入まで一貫した工程で優れた製品を提供しています。

空気からあらゆるガスの圧縮装置

■ 製造範囲 無給油 / 給油圧縮機

軸動力：～2000kW

吐出圧力：～2.4.5MPaG / ～4.5MPaG



HCL Gas
Model OPN6-4528CL

Press. 0.6MPaG
Req. Power 94kW

高圧ガス設備 試験・製造認定事業所(山口工場)

ISO 9001 認証取得

往復動式気体圧縮装置

山口工場・山口第三工場(98QR・124)



MIKUNI グループ

<http://www.mikuni-group.co.jp/>

技術開発部門
製造部門

三國重工業株式会社

本社 〒532-0005 大阪府淀川区三國本町3丁目31-15(阪急三國駅前)
TEL:06(6391)2121(代) FAX:06(6396)7432
山口工場 〒747-1232 山口県防府市大字台道字国木峠7070
TEL:0835(32)2000(代) FAX:0835(32)0603
山口第二工場 〒747-1111 山口県防府市富海1896
TEL:0835(34)0311(代) FAX:0835(34)0813
山口第三工場 〒747-0833 山口県防府市大字浜方283-5
TEL:0835(27)1330(代) FAX:0835(27)1331

販売部門

三國エンジニアリング株式会社

本社 〒532-0005 大阪府淀川区三國本町3丁目31-15(阪急三國駅前)
TEL:06(6391)8611(代) FAX:06(6391)2166
東京営業所 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目3-1(新東京ビル9階)
TEL:03(3212)1711(代) FAX:03(3214)3295
九州営業所 〒802-0005 北九州市小倉北区堺町2丁目1-1(角田ビル小倉6階)
TEL:093(511)3923(代) FAX:093(511)3928
山口営業所 〒747-1232 山口県防府市大字台道字国木峠7070
TEL:0835(32)3111(代) FAX:0835(32)3222

サービス部門

三國工販株式会社

(三國製品のアフターサービス、修理、部品販売)

本社 〒532-0005 大阪府淀川区三國本町3丁目31-15
TEL:06(6391)5125(代) FAX:06(6391)5132
東京営業所 〒134-0015 東京都江戸川区西瑞江4丁目14-8(TSMビル4階D号室)
TEL:06(6391)5125(代) FAX:06(6391)5132

製造部門

中國三國重工株式会社

本社 〒532-0005 大阪府淀川区三國本町3丁目31-15
TEL:06(6391)2121(代) FAX:06(6396)7432
山口工場 〒747-1232 山口県防府市大字台道字国木峠7070
TEL:0835(32)0601(代) FAX:0835(32)0603

局長年頭所感

経済産業省 製造産業局長 伊吹 英明 04

会長年頭所感

一般社団法人日本産業機械工業会 会長 金花 芳則 05

関西支部長年頭所感

一般社団法人日本産業機械工業会 関西支部 支部長 谷所 敬 06

委員長・部会長年頭所感

政策委員会	委員長	田畑 正太郎	07
労務委員会	委員長	高僧 英樹	07
貿易委員会	委員長	芝山 直	08
編集広報委員会	委員長	中山 亨	08
産業機械工業規格等調査委員会	委員長	永田 修	09
環境委員会	委員長	佐藤 裕子	09
ボイラ・原動機部会	部会長	高橋 祐二	10
鉱山機械部会	部会長	伊藤 春彦	10
化学機械部会	部会長	福沢 義之	11
環境装置部会	部会長	小木 均	11
タンク部会	部会長	石井 宏明	12
プラスチック機械部会	部会長	黒岩 秀樹	12
風水力機械部会	部会長	太田 晃志	13
運搬機械部会	部会長	茂垣 康弘	13
動力伝導装置部会	部会長	荒木 達朗	14
製鉄機械部会	部会長	若原 啓司	14
業務用洗濯機部会	部会長	三科 道利	15
エンジニアリング部会	部会長	花田 琢也	15

新春対談

「国内投資意欲高まる GX・DXでさらなる成長へ」 16

経済産業省 伊吹製造産業局長 × 日本産業機械工業会 金花会長

新年賀詞交歓会 20

海外レポート —現地から旬の情報をお届けする—

駐在員便り 26

わが社のダイバーシティ

女性エンジニア活躍中！
(UBEマシナリー株式会社) 30

企業トピックス

110年の歴史とともに ～from UBE to the world～
(UBEマシナリー株式会社) 31

行事報告&予定 32

書籍・報告書情報 38

統計資料

2024年10月

産業機械受注状況 40

産業機械輸出契約状況 43

環境装置受注状況 45

みんなの写真館 48

局長年頭所感

年頭に寄せて



経済産業省
製造産業局長

伊吹 英明

令和7年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

いま、世界は大きな転換期を迎えています。保護主義の台頭やウクライナ侵攻の長期化等による地政学リスクの高まりや、AI等の技術革新の加速化、気候変動をはじめとした地球規模課題に対する各国政府の関与の強まりなど、様々な構造的変化が生まれています。

こうした中、日本経済も、これまでのコストカット型のデフレ経済から、持続的な賃上げや活発な投資でけん引する成長型経済への転換局面を迎えています。昨年は、1991年以來の高水準の賃上げや、過去最高の設備投資が実現するなど、日本経済に明るい兆しが見られました。他方、足下の物価高を背景に、消費は未だ力強さを欠いています。

本年は、この成長型経済への転換を確実なものとするため、物価高に負けない持続的な賃上げを実現し、これを更なる投資の拡大へとつなげていかなければなりません。そのためには、「GX（グリーントランスフォーメーション）」「DX（デジタルトランスフォーメーション）」「経済安全保障」の3軸に基づく取組が重要であり、経済産業省製造産業局は、製造業の皆様これらの取組を支援してまいります。

脱炭素社会への移行は「待ったなし」の状況であり、産業界にも変革が求められています。昨年末に案が示されたGX2040ビジョンでは、「GX産業構造」、「GX産業立地」、「GX加速に向けたエネルギー分野」などの取組を総合的に検討し、事業環境の変化が激しい中でも企業の予見可能性を高めてGX投資につなげるべく、より長期的視点に立ち、GX実現に向けた見通しを示しました。

現状、我が国製造事業者のDXは個別工程の最適化が中心となっていますが、より一層競争力を高めていくには、企業全体、さらにはサプライチェーンや産業全体での

最適化を志向する必要があります。こうした課題を踏まえ、各企業が経営課題起点で全社最適なDXを推進するための手引きとして、NEDO・経済産業省は昨年6月、「スマートマニュファクチャリング構築ガイドライン」を公表しました。本年は、企業・業界を横断したデータの利活用を促進し、産学官が連携して企業・産業競争力の強化を目指す「ウラノス・エコシステム」の推進等に取り組んでいきます。

GXやDXに不可欠な蓄電池、AI、半導体、ロボットなどの技術は、経済安全保障の観点から重要視されています。政府は、2022年の経済安全保障推進法に基づき、重視すべき物資・技術を「破壊的技術革新が進む領域」、「我が国が技術的優位性を持つ製造装置や部素材の領域」、「対外依存の領域」の3つに整理しています。製造装置や部素材においては、技術的優位性を維持するための包括的な流出防止策が求められています。また、重要鉱物に対する過剰依存を是正するため、資源戦略と産業戦略を統合し、新たな供給源の確保を進めています。これらの取組を通じて、国際的な競争力を強化していきます。

産業界が今直面する課題は、官も民も一歩前に出て取り組まないと解決できないため、国内外で活躍されている産業界の皆様との日々の対話を通じ、将来につながる日本の経済基盤をともに形作っていきたくと考えております。

本年は大阪・関西万博の開催年であり、開催まで約3ヶ月となりました。「未来社会の実験場」として、最先端の技術が集結し、新たな産業の誕生・成長の機会になることを期待しています。ぜひ、ご家族やご友人と一緒に足を運んでいただきますようお願い申し上げます。

最後に、皆様の益々の御発展と、本年が素晴らしい年となることを祈念して、年頭の御挨拶とさせていただきます。

会 長 年 頭 所 感

年頭に寄せて



一般社団法人日本産業機械工業会
会長 金花 芳則

2025年という新しい年を迎え、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

皆様には、気分も新たに新年を迎えられたことと思います。

昨年は世界中がポストコロナ経済再生の実質的スタートの年となりました。政治的には、台湾の総統選挙に始まり、ロシアの大統領選挙、インドの総選挙、日本の総理交代及び総選挙、米国の大統領選挙と選挙イヤーでありました。さらに、米中対立の常態化や東アジアの緊迫化、ロシアのウクライナ侵攻の継続、中東での緊張の高まりなど、地政学的リスクはいや増し経済安全保障の徹底・強化の必要性の認識が強まりました。

こうした中、世界経済を振り返りますと、経済協力開発機構（OECD）が昨年12月に公表した世界経済予測では、インフレ率低下、雇用拡大及び金利引下げなどを背景に、世界経済は今後2年間安定的に成長するとの見通しが示されました。一方で、貿易摩擦と保護主義の高まりでサプライチェーンが混乱し、消費者物価を押し上げ、成長に悪影響を及ぼす恐れも懸念されており下振れのリスクを感じるところであります。

日本経済動向を見ると、昨年12月の内閣府月例経済報告では「一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している」と5ヶ月連続で景気判断が据え置かれ、設備投資や輸出、個人消費の各項目についての判断も同様となりました。一方で、企業収益については21ヶ月ぶりに下方修正されるなど、景気回復のテンポは緩やかになってきているとのことです。

産業機械業界の状況ですが、当工業会の受注統計では、昨年4月～9月（年度上半期）の受注総額が前年同期比1.7%増の2兆8,162億円となり、年度上半期の受注金額としてはコロナ禍以降で最高を記録しました。官公需と外需が伸びており、官公需は環境装置及びポンプ等の増加、外需は中東や北アメリカがけん引役となりました。

さて、2025年ですが、我々産業機械業界が更なる成長を遂げ、また、日本経済の活性・発展に貢献するため、次の課題に対し、より積極的な取り組みが必要と考えます。

まず、GX（グリーントランスフォーメーション）への対応です。次期エネルギー基本計画の着実な実行を支えるためにも、当工業会会員の皆様が製造・供給する製品・サービスは不可欠なものであります。原子力発電の活用、更なる再生可能エネルギーの導入拡大の他、徹底した省エネの推進や、CCUSの導入、次世代エネルギーである水素・アンモニアの社会実装の加速が不可欠です。産業機械業界は、グリーン産業を目指し、GXに関する技術の開発・実証・社会実装を後押しします。

本年は第30回を数える海外貿易会議の実施年となっており、スウェーデンとイタリアでの開催を考えています。水素利用の取り組みが目覚ましくイノベーションの盛んな北欧と、スマートファクトリーへの転換が進む一方で新エネルギーにかかる取り組みも積極的なイタリアについて、その実情を調査し現地関係者との意見交換を実施します。

次に、我が国の経済安全保障への対応です。世界規模でのサプライチェーンの再整備は、日本経済を支える根幹に当たります。我々産業機械業界は、サプライチェーンを構成する製造装置・部素材・原料等の製造能力の強化に資する技術を開発し、生産設備の提供に取り組んでいく必要があります。

日本産業機械工業会は、こうした社会の変化や課題に応え、地球環境保全、国際交流、標準化などの各種事業を推進し、また、政策提言を積極的に行うなど、産業機械業界並びに会員企業の皆様の事業発展に向けた活動に力強く取り組んでまいります。

政府におかれましては、昨年12月に成立した補正予算に盛り込まれた「日本経済・地方経済の成長」などへの対応を速やかに実施していただくとともに、水素・アンモニアなどの新エネルギーの活用を含むGX事業の推進・実装に取り組まれますことを期待しております。

年頭にあたり考えるところを述べさせていただきましたが、関係各位におかれましては、なお一層のご指導、ご協力をお願いしますとともに、皆様のご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

関西支部長年頭所感

産業機械の輝く未来に向けて



一般社団法人日本産業機械工業会
関西支部 支部長 谷所 敬

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。
2025年の年頭にあたり、謹んで所感を申し上げます。
世界経済は、米中欧の景気の減速が継続しておりましたが、本年は欧米の金利引き下げと景気刺激策により緩やかに回復すると見込まれますが、トランプ大統領のアメリカ第1主義の経済・外交政策やウクライナ・中東の地域情勢など不確実性が高い状況です。

一方、日本経済は、インバウンドの増加に支えられた活発な個人消費により非製造業は活況です。また、製造業の設備投資は好調を維持していますが、企業収益は人件費上昇、商品値上げ、海外事業などへの対応により各社でバラついています。資材コストの安定による収益改善を期待しています。

本年も、働き方改革と今後の人不足に備えて、生成AIを含むデジタルを活用して生産性向上と企業価値向上を目指しましょう。インターネットが普及したように、生成AIを事業にどう活かすか、各社のデジタル・プラットフォームや仕組みの効果が問われる年になります。生成AIに必要な膨大なデータを処理するには大きな電力を必要とします。現在見直し中で3月に見直し完了予定のエネルギー基本計画には、2040年の電源構成に原子力発電の強化を盛り込んでほしいのです。再生可能エネルギーは不安定なので、原子力発電所の再稼働と建て替えて電力の安定と価格低減を実現してください。小型モジュール炉(SMR)などへの建て替えには約10年の歳月が必要ですので、政府が主導して民意をリードしてください。2023年に開催されたCOP28で欧米とアジアの各国が、カーボンニュートラルに向けて再生可能エネルギーだけに頼らず原子力発電に力を入れています。政府は2035年の温室ガス削減の新目標を、13年度比で60%減とする案で調整中ですので、東京電力福島発電所の事故以来傷んでいる日本の原子力発電産業を再生・発展させて、削減目標の実現を目指すことが望まれます。

今年4月13日に開催する2025年大阪・関西万博は、161か国と9国際機関が参加して、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして地球の未来を最新技術で紹介してくれます。万博会場のシンボルである大屋根(リング)は、1周約2kmの世界最大級の木造建築物となり、日本の木造建築への設計・施工技術を結集した注目のプロジェクトです。日本館、民間パビリオン、海外パビリオンなどが個別のテーマを設定して建設され、エージェント、自動翻訳、CG、ARなどの最新技術が披露され、スマートモビリティとして水素船や空飛ぶクルマが運航されます。2030年のSDGsや2050年のカーボンニュートラルに向けた多様な未来社会ショーケースが紹介されるので、会社の中長期事業戦略や人間一人ひとりの生き方の参考としてぜひご参加ください。

我々日本産業機械工業会加入各社が、生成AIを活用し、機械・プラントの自動化・自律化を推進して、日本の「ものづくり」を進化させ、重点的にグリーン、デジタル、人材に投資することにより環境保全と経済発展を両立させ、サステナブルな事業として運営していけるように共に頑張りましょう。機関誌「産業機械」の2025年テーマが、「いのち輝く未来社会の産業機械 ～人と社会の共存をめざして～」に決まりましたので、皆で産業機械の輝く未来を創っていきましょう。

コロナとインフルエンザに対する免疫力を高めるために、自分の健康目標を定め、食事のバランス、適度な運動と睡眠に努めましょう。

最後になりましたが、皆様の今年のご活躍とご健勝及び会員各社の発展を祈念するとともに、関西支部の活性化のためにより一層のご指導・ご協力のお願いと、関西支部各社が会員の皆様の万博へのご来場をお待ちしていることを申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

ご安全に！

委員長・部会長年頭所感

政策委員会 委員長 田畑 正太郎

(株式会社IHI 執行役員)



新年あけましておめでとうございます。2025年年頭にあたり、「いのち輝く未来社会の産業機械」に関して所感を述べたいと思います。

今年4月に開幕する大阪・関西万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとしていますが、持続可能な未来を支える技術や社会システムの創造と展開において、産業機械業界が果たす役割の大きさを改めて感じています。IoT、AI、ロボティクス、ビッグデータなどの先端技術を駆使して、カーボンニュートラルや人口減少、高齢化といった社会課題の解決を図るという点で、会員各社におかれてはすでに貢献されているところですが、万博を通してより多くのプレイヤーが参加し、世界中の叡智を結集してもう一段の高みに向かうことが期待されます。

少子高齢化が進む日本において持続可能で安全・安心な社会を実現するには、熟練のエンジニアや作業者が蓄積したノウハウや感覚を誰もが利用できる、安全で効率的なモノ作りを維持することが不可欠です。例えば、急速な進化を遂げる人工知能(AI)は、人間の五感をも備えたロボティクスと融合することで、より柔軟で高度な作業を実現し、労働力不足や作業環境の改善による日本の持続可能な産業社会実現に向けた重要な一手となることが期待されますが、一方でデータの品質や量、活用のためのインフラ整備、利用者のリテラシー向上などの課題も顕在化しています。大阪・関西万博が「未来社会の実験場」をコンセプトとしているように、産業機械業界においても様々な取り組みを通してイノベーションが加速される年になろうかと思えます。

政策委員会においては、そのイノベーションを後押しし、持続可能な社会を技術革新によって実現するために政府への提言をまとめてまいりたいと考えます。

末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸、また業界のますますの発展を祈念申し上げます。本年も何卒よろしく申し上げます。

労務委員会 委員長 高僧 英樹

(株式会社栗本鐵工所 東京支社 総務部長)



新年明けましておめでとうございます。みなさまには健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

経済のグローバル化、急速なデジタル化、国際政治環境の不安定化、ポストコロナ社会の到来により企業の雇用や労務管理の転換が迫られる一方で、働く人の働く意識や働き方への希望がこれまで以上に個別・多様化の傾向が強まり不確実な時代の中で、その傾向はこれからも強まると考えられます。

当委員会では昨年、女性活躍推進や新卒・キャリア採用活動、国内外出張における旅費規程の改定、海外駐在者への支援策、働く人の心身健康維持とキャリア形成、離職防止策など多くの問題について、情報の提供と共有、課題解決に向けた議論を重ねました。

特に、社内における女性の母集団が少ないこと、今後も続くであろう「リケ女」「メカ女」が少ない現状をいかに打破していくか。一企業だけで解決していくことに限度があり、業界全体で取り組むべきと考えます。また昨年からはIT職というものができ、学生(高校生含む)の多くが希望し入社するとのこと。在宅勤務が可能、転勤がない、勤務先は東京といった理由のようです。

一方重工系は技術等の習熟に時間を要す、職場に女性が少ない、工場は西日本に隔たっているなどという声を耳にします。地味な活動となりますが、新しい技術のPRと子供たちに「モノづくり」「機械」の面白さを知ってもらい興味を抱ける活動が必要なのではないでしょうか。

また昨年当委員会は、開催日は必ず懇親会付きとし、秋には各社若手社員も参加させました。社外の若手社員とコミュニケーションを取ることで自分が所属する企業・職場の特徴を知ることができ、仕事のエンゲージメント向上につながったと感じています。

最後になりましたが、当委員会への関係各位の日頃のご協力に感謝するとともに、会員の皆様の一層のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

貿易委員会 委員長

芝山 直

(カナデビア株式会社 顧問)



新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
会員の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのことと思います。

今月米国第一主義を唱える第2次トランプ政権が発足します。目玉である関税政策や保護貿易など、公約で掲げた政策をどのように具体化されるかは現時点で明確ではありませんが、米国には国際社会において保護主義に陥ることなく、ルールに基づく国際経済秩序を支えるためのリーダーシップを発揮することを期待するところです。

またウクライナ、中東情勢はいまだ解決の糸口が見つからず、引き続き緊張感を持って戦況を見守る必要があります。これらの地域に一日も早く公正かつ永続的な平和が訪れるよう、国際社会が緊密に連携していくことを願います。

当貿易委員会ではこのような世界情勢を注視しつつ、新たな成長、貿易・投資の拡大に貢献できるよう、工業会としての提案を発信し続ける所存です。主軸の活動の1つとして、隔年開催を通例とする経済産業省主催の海外貿易会議があります。本秋にはスウェーデン及びイタリアにて開催する運びとなりました。

さて本年4月から半年間にわたり2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)が開催されます。『いのち輝く未来社会のデザイン』をテーマとして最先端技術など世界の英知が集結し、新たなアイデアを創造発信する場となります。現在私たち人類は、地球規模で抱える様々な課題に対して、新しい価値観を生み出し、持続可能な未来を構築する必要があります。産業機械業界は、新エネルギー、カーボンニュートラル、AI、ソリューションビジネスの進化による社会変革の流れとともに、輝く未来社会を創り出す一翼を担いたいものです。

引き続き、皆様方の海外事業展開に資する新たな情報発信と事業模索をしてまいりますので、活動への積極的な参画とご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、当委員会活動への関係各位の日頃のご協力に感謝申し上げますとともに、皆様の一層のご活躍とご健勝を祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。

編集広報委員会 委員長

中山 亨

(株式会社荏原製作所 執行役 CRO)



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

また日頃より、当産業機械工業会の機関誌「産業機械」の編集、発行にあたり会員各社より多大なご協力をいただいていることにお礼申し上げますとともに、本年も引き続きご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

昨年は元日に能登半島で震災が発生し、多くの方が犠牲になりました。さらに、夏場には被災地の能登を含む日本各地で豪雨被害が多発しました。犠牲になった方とご家族に心から哀悼の意を表するものです。同時に、我々産業機械業界としても防災や復興に向けて多様な貢献機会を与えられていることも再認識いたしました。

一方、世界に目を向ければ、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザ地区攻撃による犠牲者の拡大が続いています。また、2024年は世界的に重要な選挙が続き、11月の米国大統領選挙ではトランプ氏が民主党の候補者を破って大統領に返り咲きました。トランプ政権での外交政策やエネルギー・環境政策の動向は産業機械業界にも少なからず影響するため大きな関心をもって注目していきたいと思えます。

日本産業機械工業会では、本年開催される大阪・関西万博のテーマに共感して、会誌「産業機械」の2025年の年間テーマを「いのち輝く未来社会の産業機械」といたしました。工業会の会員企業でも10社以上が出展を予定していますので、7月号では万博特集として産業機械が未来を共創していく社会や、産業機械の輝く未来を発信していければと考えております。

最後になりましたが、皆様のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

産業機械工業規格等調査委員会 委員長

永田 修

(株式会社荏原製作所 執行役
建築・産業カンパニー プレジデント)

新年明けましておめでとうございます。

2024年はロシア・ウクライナ戦争や中東紛争が世界経済に影響を与えた一方で、日本経済は堅調な国内需要に支えられ、実質GDP成長率+0.3%とプラス成長を記録しました。2025年は世界経済が同+3.2%、日本経済が同+1.1%と成長が見込まれる一方で、中国経済の減速や米中摩擦などのリスクが懸念されています。その中で、企業によるプロセスの自動化や省力化への投資が一層加速すると見込まれています。

21世紀の産業革命は、デジタル技術や新エネルギーを活用し高度な自動化と持続可能性を追求しています。産業機械は単なる生産設備にとどまらず、自律ロボットによる生産自動化、プロセスの電化及び水素社会の実現などの場面で中核的な役割を果たしています。また、技術革新は省エネや省人化などの付加価値をもたらすだけでなく、市場競争の激化や顧客ニーズの多様化を促進します。カーボンニュートラルやサステナビリティが重視される社会において、顧客の課題解決や新たな価値の創出に貢献する付加価値型サービス提供が競争力の鍵を握っています。産業機器においても、IoTによる稼働状況の可視化やAIを活用した予知保全サービスなど、いわゆる「モノ売り」から「コト売り」への転換が顧客満足度と信頼性の向上につながり、持続可能な成長基盤の構築が可能となるでしょう。

産業機械工業規格等調査委員会として、デジタル技術や新エネルギーの活用を推進する活動を通じて、産業機械の未来のために尽力してまいります。

最後に、皆様の更なるご発展とご健康をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

環境委員会 委員長

佐藤 裕子

(三菱重工株式会社
シニアフェロー 技術戦略推進室長)

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨今、パレスチナ問題をはじめとする紛争の深刻化に加え、日本や欧米の主要国において首長が交代し、国際情勢は不安定化しています。特に米国における気候変動対策は今後低迷していくことが予想されます。一方、昨年のCOP29では、地球温暖化防止のため、先進国が主導し途上国支援として進める資金拠出枠組みについて新たな目標が定められるなど、引き続き気候変動対策が求められております。

当工業会としては、このような国際的な動向を考慮に入れつつ、脱炭素社会実現に向けて、特に国内生産活動におけるCO₂削減に取り組んでいます。2023年度の集計結果としましては、生産額が増加する中で2013年度比約24%のCO₂排出量の削減を実現いたしました。これは、会員企業の皆様による照明や空調、熱電設備等での高効率機器の導入や燃料転換、省エネ活動の推進といった継続的なCO₂排出削減対策の賜物です。

世界に誇れる環境装置や省エネ機械を供給しているわが国の産業機械業界は、引き続き、変化していく社会の多様なニーズに合わせたインフラ整備や生産設備等での高効率な省エネ技術・製品を開発、提供し、ものづくりを通じて国際社会の脱炭素化へ貢献してまいります。また、本年開催されます大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」ですが、当工業会においても人と社会が共存できる持続可能な社会実現に向け、関連業界と連携し、革新的なイノベーションの創出や新たなビジネスモデルの開拓にも積極的に取り組んでいきたいと考えます。

本年も関係各位のご支援を賜りながら、委員会活動を通して産業機械業界の活性化に尽力してまいります。最後になりましたが、当委員会への日頃のご協力に感謝するとともに、本年の会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

ボイラ・原動機部会 部会長

高橋 祐二

(三浦工業株式会社 相談役)



新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年は、世界的に観測史上最も暑い年として多くのメディアで取り上げられ、地球温暖化は終わり地球沸騰化の時代が到来していることを実感しました。日本でも気温上昇が要因と言われる大規模気象災害が多発しており、脱炭素社会実現への機運は更に高まっております。

そのような中、電力部門の脱炭素に関する取り組みが国の政策として進む一方で、非電力部門、特に熱の脱炭素化についてはまだ検討段階であり、CO₂多排出部門である産業界では取り組みを加速させる必要があります。ボイラにおいて、化石燃料を使用したボイラからカーボンフリーの水素やアンモニア、バイオ燃料ボイラへの切り替えは重要ですが、インフラやコストなどの課題が多く、エネルギー転換期は、高効率なヒートポンプとボイラの使い分けやハイブリッド利用など、現場状況に応じた細やかな提案で徹底した省エネを図る必要があると考えます。

また、エネルギー問題と同様に、人口減少に伴う人手不足も大きな社会課題となっております。先進的なITを利用して工場全体にソリューション提案・保守管理提案し、お客様は人にしかできない付加価値の高い仕事に注力できるよう、システムを変えていく必要があります。

これらの課題を解決しながら産業機械業界の輝く未来を創るべく、当部会ではGXとDXの取り組みを推し進めたいと考えており、会員企業の皆様には、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様方にとりまして、本年が実り多い飛躍・発展の年になりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

鉦山機械部会 部会長

伊藤 春彦

(株式会社東亜利根ボーリング 相談役)



新年あけましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、終わりの見えないロシアのウクライナ侵攻、イスラエル・ハマス紛争など国際社会は混迷を極め、さらにアメリカ・ファースト政策を提唱するトランプ前大統領の再任は先行きを不安視させるものでした。未来社会に望むのは、人種、宗教、文化、言語、地理的条件等の違いにこだわらず、あらゆる多様性を尊重しながら、共に環境問題、戦争、貧困等を解決し、科学技術の発展に寄与していくことではないかと考えます。こうした未来の実現のためには国、企業、個人等の様々なレベルで持続可能な開発目標(SDGs)を達成していく必要があります。

製造業の理想は商品やサービスに独自性を持たせ競争力を生み出す「ブランディング」の形成です。産業機械では「DX」への取り組みがブランディングへの大きな足掛かりであることは間違いありません。2010年代よりSNSをはじめとするICT技術が進展し、特化型AI(機械学習)が急速に普及するなど、「DX」へ取り組む環境整備は十分に構築されてきました。特に、短期間で急激に進化している「生成AI」には、ゼロから答えを導く可能性が垣間見え、ニューラルネットワークの進化を期待させるものです。近年の産業機械へのDX推進は、「生産性向上」、「省力・省人化」といったニーズに応えるべきAI等の新しい情報技術利用が主体的でした。本機関誌が2025年度のテーマとする「いのち輝く未来社会の産業機械」は、DX推進(AI制御)において環境にやさしく、人々の疲労を軽減し、ストレスなく、安全に、快適さを確保するといった人間中心のデザインを強く求めたものと考えます。鉦山機械部会としても、これまで以上に会員各社で連携していく場を増やしていくことで、テーマ達成に貢献していきたいと思っております。最後になりますが、本年も会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げて、新年の挨拶とさせていただきます。

化学機械部会 部会長

福沢 義之

(月島機械株式会社 代表取締役社長)



新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年はわが国の産業界において、カーボンニュートラルに向けた環境負荷低減と持続可能性を本格追求するための開発・投資が一段と積極的になり、業界全体で大きな進展が見られた一年であったと思います。

特に当部会との関係が深い化学メーカー各社は、世界的なエネルギー価格高騰、サプライチェーンの分断、中国経済の減速など多くの課題に直面しながらも、カーボンニュートラルを実現するための技術開発や、省エネルギー型プロセスの導入、廃棄物ゼロを目指した資源循環型技術の推進によって企業価値の更なる向上を目指しておられます。

また、日本政府においては再生可能エネルギーやグリーン水素の生産など、これら技術の導入を目指す企業に対する助成を大幅に強化するなど、循環型社会の構築に向け国内産業の技術革新を後押しする政策を打ち出しており、我々機械製造業界はこれらの政策をドライブフォースとして実行されている社会実装への枠組に貢献していくことが求められています。

さらに、これらの持続可能な社会の実現と地球環境の保全への取り組みに貢献することで「人と社会の共存の達成」を後押しし、産業機械のあるべき姿を示していくことが重要であると考えます。

最後となりましたが、本年も皆様のご健勝とご多幸、また会員各社様の更なるご発展を祈念し、年始の挨拶とさせていただきます。

環境装置部会 部会長

小木 均

(カナデビア株式会社 専務執行役員)



新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のご挨拶申し上げます。

昨年11月に行われたアメリカ大統領選では、トランプ氏が再び大統領の座に返り咲きを果たしました。次期政権下では、法人税率の引き下げと大幅な追加関税の導入に踏み切り、インフレを招くのではないかと懸念が広がっています。また、トランプ氏は気候変動対策にも消極的な姿勢を示しており、バイデン政権で復帰したバリ協定からの再離脱が囁かれています。これらが産業界に与える影響について注視しておく必要があります。

さて、いよいよ今年は2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)が開催されます。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げ、本格的なAI・自動化の時代に向けた様々な革新技術が披露されることが期待されています。新たなAI技術によって人間の活動はこれまで以上に効率化され、より豊かな生活を享受できるようになることでしょう。一方で、AIの進化を社会がどう受け入れていくかについては課題が残されています。人類とAIとの共存を円滑に進めるためには、その能力と役割を正しく理解し、適切に対応するための教育や啓発活動が重要になってくると考えます。

環境装置の分野においては、今後も増大していくエネルギー需要と両立した脱炭素技術の早期実装や、気候変動に対応した社会インフラの整備とその維持管理の省人化などが、人類と地球との調和を目指す環境装置産業の使命と考えており、新たな取り組みが誕生することを期待します。

本年も、会員各社のご支援を賜りながら部会を運営し、環境装置産業の活性化に尽力してまいり所存です。最後になりましたが、会員の皆様の一層のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

タンク部会 部会長

石井 宏明

(株式会社石井鐵工所 代表取締役社長)



2025年の初春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本年(令和7年)は昭和100年にあたります。終戦から約四半世紀後の1979年に『ジャパン・アズ・ナンバーワン』が発行され、世界第2位の経済大国を誇った日本は、1990年代から『失われた30年』に突入しました。

しかし、日経平均株価は昨年2月にようやくバブル期の史上最高値を34年ぶりに更新し、3月には史上初の4万円台を記録しました。また、2022年に値上げ、2023年に賃上げ、2024年には利上げという動きが始まり、長いトンネルを抜ける兆しが見えています。今年はいよいよ日本が活気を取り戻す大切な年をしたいところです。

ところで、まもなく第7次エネルギー基本計画が発表されます。国内産業の競争力確保のためには安定的なエネルギー供給と、コストの低減が必然です。また、国内産業の成長においては、地域経済を牽引し、製造業に従事する中堅・中小企業の役割が欠かせません。

これらの製造業を下支えするのが産業機械業界であり、特にエネルギー業界、素材業界を支えるのが我々タンク部会の役割です。3E+Sを念頭に、環境にやさしく、災害に強いインフラの構築を目指してまいります。

いよいよ4月13日から大阪の夢洲で2025大阪・関西万博が開催されます。未来に向かって様々なエネルギービジョンが示されることと思います。また、今年11月にはブラジルでCOP30が開催されます。私たちにはカーボンニュートラル社会の実現という大きな課題があります。

さらに、今年は阪神・淡路大震災から30年となる年でもあります。2011年の東日本大震災や、昨年の能登半島地震など、未曾有の大災害からの経験を教訓にして、エネルギーを安心・安全に供給し、災害に負けないインフラづくりをするという大きな使命を我々タンク部会は担っています。

これらの課題に対して本年もタンク業界は一致団結して臨んでまいります。

最後になりましたが、本年が会員各社様にとりまして、一層のご多幸・飛躍の年となりますよう、心より祈念申し上げます。

プラスチック機械部会 部会長

黒岩 秀樹

(住友重機械工業株式会社
インダストリアル マシナリーセグメント
プラスチック機械事業部長)



2025年の念頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本年は2025年大阪・関西万博が開催されます。持続可能な開発目標(SDGs)達成への貢献と日本の国家戦略Society5.0の実現を目指す中で、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げています。

一方で世界の情勢に目を向けますと、ウクライナや中東などの地で起きている問題の先行きは依然として不透明な状況が続いております。産業界においても、地政学リスクに起因する需要や供給の分断に加え、材料費、人件費、燃料費の大きな変動に代表される難しい課題に直面しております。

このような中で設定された機関誌『産業機械』の年間テーマは「いのち輝く未来社会の産業機械～人と社会の共存をめざして～」です。我々を取り巻く課題と向き合い、人と社会の共存をめざすためには、生産地やユーザーの変化と多様化に対応し、それを持続可能にしていくことが、今後ますます産業機械に求められていくことになるのでしよう。

当部会はプラスチック製品を対象とした射出成形機・押出成形機・ブロー成形機を製造するメーカーで構成されています。これまでプラスチック製品の製造においては大量生産による効率化と生産性向上が主要なニーズでしたが、昨今はそれに加えてカーボンニュートラルに代表されるサステナビリティ対応や省人化といった社会課題への対応が進んでいます。今後は更にSociety5.0が提唱するIoT、AI、ロボティクス、ビッグデータ、バイオテクノロジーといった技術の導入がこれらの進化を加速していくものと予想します。プラスチック製品及びその製造装置を進化させ、いのち輝く未来社会に向けて貢献していきたいと考えます。

最後となりましたが、日本産業機械工業会の発展と会員企業の皆様の更なるご活躍とご健勝を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

風水力機械部会 部会長

太田 晃志(株式会社荏原製作所
執行役 インフラカンパニープレジデント)

新年明けましておめでとうございます。皆様と共に新たな挑戦を迎えられることを大変嬉しく思います。

これからの時代、私たちは単に効率や生産性を追求するだけでなく、多様な価値観が認められる人や社会にやさしい未来を実現することが大切です。産業機械は、私たちの生活を支える基盤であり、農業、製造業、建設業など、様々な分野で活躍してきました。人間の手助けをし、作業の効率化を図る重要な役割を果たしてきたのです。一方で機械の導入が進む中で、私たちはその影響を真剣に考える必要があります。機械が人間の仕事を奪うのではなく、共に働き、より良い社会を築くためのパートナーとなることが求められています。

環境問題や資源の枯渇が深刻化する中、私たちの産業機械も変革を迫られています。エネルギー効率の向上や再生可能エネルギーの活用は、今後の産業機械にとって不可欠な要素です。産業機械が持続可能な社会の実現に寄与するためには、環境に配慮した製品開発を進めることが必要です。これにより、私たちは効率的でありながらも、環境に優しい社会を築くことができます。

技術革新は、まさに新たな産業革命の幕開けを告げています。過去の産業革命が手作業から機械化へと移行したように、現在の技術革新はAIやIoTなどの新しい技術を産業機械に組み込むことで、Society 5.0という世界を実現しています。機械はより高度な判断を行い、人間の作業をサポートすることが可能になります。

私たちの目指す未来社会は、全ての人々が安心して暮らせる社会です。産業機械がその一翼を担い、人と社会が共存するための道筋を示すことが私たちの使命です。新しい年を迎え、私たちは、いのち輝く未来社会の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

皆様のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。新しい年が皆様にとって素晴らしい一年となりますように。

運搬機械部会 部会長

茂垣 康弘

(株式会社IHI エグゼクティブ・フェロー)



2025年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。産業機械の発展に対する皆様のご尽力に深く感謝申し上げますとともに、本年も日本産業機械工業会運搬機械部会の活動に対し、変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

昨年は、インフレ鎮静化を背景として世界経済は緩やかな成長を維持しつつ、中国の内需停滞の長期化や、第2次トランプ政権で予想される「米国第一」の政策転換といった不確定要素を強く感じる一年でありました。

2025年の機関誌「産業機械」では、「いのち輝く未来社会の産業機械～人と社会の共存をめざして～」を年間テーマとして掲げております。このテーマは、私たちが直面している社会課題を解決し、持続可能な未来を築くための大きな指針となるものです。産業機械が果たすべき役割は、単なる生産効率化や省人化にとどまらず、人と社会の共存を実現するための重要な手段として、ますますその価値が高まってきていると思います。

AIやIoT、ロボティクスといった先端技術を活用することで、労働環境の改善や高齢化社会への対応が進み、さらには環境負荷の低減といった多岐にわたる課題に取り組むことが可能となります。これら先端技術は、産業機械の新たな価値を創出し、地域社会、ひいてはグローバル社会の持続可能性に寄与するものと期待されます。

当部会においても、運搬機械がどのようにして社会問題を解決し、いのち輝く未来社会の実現にどう貢献するのか、その具体的な方法について探求するとともに、先端技術に関する有益な情報提供に努めてまいりたいと思います。

最後になりますが、産業機械のより一層の発展を願い、そして、会員の皆様のご活躍とご健勝をお祈りし、年頭のご挨拶とさせていただきます。

動力伝導装置部会 部会長

荒木 達朗

(住友重機械工業株式会社
取締役 専務執行役員
パワートランスミッション・コントロール事業部長)



「いのち輝く未来社会の産業機械～人と社会の共存をめざして～」

新年明けましておめでとうございます。昨年は、1月1日から能登半島において震災が発生しました。被災された皆様へお見舞いを申し上げますとともに、早い復興を祈念いたします。

さて、今年は大阪・関西万博が4月より開催予定であり、まさに万博のテーマにもある「いのち輝く未来社会」への大きな変換の年になると考えられます。我々動力伝導装置部会は、ロボティクス分野、省エネルギー分野への貢献を果たしていくことを大きく期待されているのではないのでしょうか。ロボティクス分野では、もはや協働ロボットは当たり前ものとなり、この分野での大きな成長が期待されます。省エネルギー分野では、2030年に向け、モータのさらなる高効率化と共に減速機においても省エネルギー対応が求められるでしょう。皆様と共に社会への貢献を果たしていきたいと思えます。

世の中は、戦争の影響が欧州の経済に大きな打撃を与え、中国経済の低迷ならびに米国大統領交代による関税対応に神経をすり減らす日々ですが、決して明るい未来が無い訳ではありません。必ず我々に大きな機会が来ることを信じて、日々、努力を続けて行くことが大事だと考えています。今、求められていることは、変化への挑戦ではないのでしょうか。

2025年が大きな転機となり、皆様と共に「いのち輝く未来社会」を実現していくため、今後も部会の皆様と情報を共有し、しっかりと議論させていただきたいと思えます。

会員の皆様のご健康とご活躍を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

製鉄機械部会 部会長

若原 啓司

(スチールプランテック株式会社
代表取締役社長)



新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、わが国や米国をはじめとする主要国の選挙が相次ぎ、終わらない地域紛争等の影響で物価高や為替変動、サプライチェーンの混乱が続いた年でした。24年問題の影響もあり、投資計画への慎重な対応が現れ始めた年でもありました。

本年も政治経済は不安定な状況が続くことが予想されます。製鉄機械業界は、変化に対し臨機応変に対応できる柔軟性と早さを持ち、業界一丸となって成長を持続させていく必要があります。

まず、我々が積極的に取り組まねばならないことは、環境との共存です。社会の基盤である地球環境の改善のため、我々が製鉄の場で培った大きく、熱く、無駄のない技術を脱炭素・循環社会という面へも適用していきましょう。大きな政治的変動と過度な経済至上主義の中でも、地球と人類社会との共存を目指していきましょう。

また、エンゲージメントの向上も進めなければなりません。今後ますます深刻化する働き手不足に対応するために、多様な人材をより多く迎え入れ、成長の場を提供し、長く働き甲斐を感じ続けてもらえる環境を整えていきましょう。

昨年は、パリ五輪や米大リーグ、欧州サッカー等で活躍する日本人選手に胸を躍らされた年でもありました。

我々の製鉄機械部会も、世界で活躍する日本人選手達のように、会員各社間では切磋琢磨し、黒船にはチームジャパンとして結集する。そのような協力関係を築く場でありたいと思えます。

製鉄機械というフィールドで、長く社会に貢献し続け、未来の人たちから感謝され、尊敬される仕事を通し、一人ひとりのいのちを輝かせましょう。

皆様と共に、産業機械の更なる発展に向けて尽力してまいります。本年もよろしくお願い申し上げます。

業務用洗濯機部会 部会長

三科 道利(株式会社東京洗染機械製作所
代表取締役社長)

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は日本産業機械工業会 業務用洗濯機部会の活動に多大なご支援ならびにご協力を賜り、誠にありがとうございました。

昨年は、国内観光やビジネスの移動人口の復活に加え、訪日外国人観光客数もコロナ以前の最高を上回る勢いで増加し、今年はより多くの外国人観光客が日本に集まるのではないのでしょうか。さらに、四月からは大阪・関西万博も開催され、様々な需要喚起が期待されます。

一方で、材料や資材・エネルギーコスト・人件費の高騰や、少子高齢化の進行による労働人口の減少といった課題に加え、加速する地球温暖化による作業環境の悪化や度重なる自然災害など、企業を取り巻く環境は一層厳しくなっております。

これらの課題に対する、ユーザーの皆様から寄せられるニーズに対しては、機器単体の性能向上だけでなく、AIや画像処理をはじめとする先端技術を活用した自動化や省人化システムの開発、工場全体での効率的な節水や排熱再利用の達成に向けて、各社が取り組みを進めております。

また、災害への対策に関しましては、被災地の一日でも早い復興・復旧に向けて、すでに取り組みを始めているクリーニング業界の皆様と連携し、清潔という側面から、われわれメーカーがどのように貢献できるのかを検討していきたいと考えております。

最後になりましたが、皆様方の一層のご活躍とご健勝をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

エンジニアリング部会 部会長

花田 琢也(日揮ホールディングス株式会社
専務執行役員)

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本年も、産業機械業界に携わる皆様と共に、新たな技術革新、持続可能な解決策の提供、グローバルな競争力の向上など、様々な挑戦と成長を遂げることを目指してまいります。

現在、世界が直面する諸課題はますます深刻化しており、私たちの役割もより重要になっていると感じています。特に、気候変動や環境保護などの課題に対しては、水素・アンモニア等の新エネルギー開発、再生可能エネルギーの活用、環境負荷の低減など、エンジニアリングの力を活かした持続可能な社会への貢献が求められています。

私たちの使命は、新たな技術やエネルギーの開発・実現を通じて、人と社会が共存していく世界を作り上げていくことです。そのためには、ビジネスの視点だけでなく、地域社会との連携を深め、共に成長するパートナーシップを築くことが重要です。グローバルな視点で課題を分析し、最適な解決策を提案することも欠かせません。

また、私たちのビジネスの成長には、人財の育成と多様性の推進が欠かせません。優れた人財を育て、技術力と創造力を伸ばすことでイノベーションを生み出し、より付加価値の高いサービスを提供していくことができます。さらに、多様なバックグラウンドや視点を持つ人財が集まる環境を整え、共に成長し、互いに共感しあう組織を築いていくことも重要です。

ウクライナ戦争、中東ガザ地区紛争、米中対立など国際的な緊張が続き、将来の予測が困難な時代においても、私たちは恐れずに前に進み、真正面から向き合っていく覚悟を持つ必要があります。エンジニアリング部会としても、「山の頂を眺め、常に困難な道を行く」という気概で社会への貢献を追求してまいります。

最後になりますが、会員企業の皆様のご健勝と更なるご発展を心よりお祈り申し上げます。

国内投資意欲高まる GX・DXでさらなる成長へ



日本産業機械工業会
秋庭 専務理事

経済産業省
伊吹 製造産業局長

日本産業機械工業会
金花 会長

新 春 対 談

伊吹局長 × 金花会長

日本経済に潮目の変化が訪れ始めている。

経済安全保障の高まりを背景に国内投資への意欲は高まり、
新たな成長のけん引役として

デジタル変革(DX)やグリーン・トランスフォーメーション(GX)の流れも定着しつつある。

歴史的な選挙イヤーを越えて世界の潮流は変るのか、日本は潮流に乗れるのか気になるところ、
経済産業省製造産業局の伊吹英明局長、日本産業機械工業会(産機工)の金花芳則会長に
産業界の潮流や政策動向、展望などを語ってもらった。

*本対談は2025年1月9日付日刊工業新聞(6面)に掲載されたものを機関誌用に編集したものです

❖ 秋庭専務理事

ポストコロナ経済再生が実質的にスタートした2024年でしたが、歴史的な選挙イヤーであり、地政学リスクの高まる動きのある1年となりました。政府におかれましては昨年をどのように振り返りますか。

❖ 伊吹局長

昨年は史上初めてGDPが600兆円を超え、民間設備投資額は一昨年に続き100兆円を超えて過去最高の設備投資を達成する見通しです。賃上げについても大企業は5%超、中小企業でも4%台を実現しており、潮目の変化が確実に見えた年であったと捉えています。一方で、地政学リスクは非常に高まっており、これまで以上にサプライチェーン全体で物事を考えなければならぬことが明らかになりました。また、半導体や蓄電池等の重要物資やGXの分野においては具体的な投資案件が現れ、経済界の積極的な取り組みが見られた1年でした。

❖ 秋庭専務理事

金花会長からも昨年の振り返りや今年の展望をお願いします。

❖ 金花会長

昨年の産業機械業界の状況ですが、当工業会の受注統計では総額が前年同期比1.7%増の2兆8162億円となり、年度上半期の受注金額としてはコロナ禍以降で最高を記録しました。

経産省主催で隔年開催の海外貿易会議ですが、30回目を迎える今年は秋にスウェーデンとイタリアでの開催を考えています。北欧は再生可能エネルギーの普及率が高く、我々が注目しているGX関連のスタートアップや企業が多くあります。

水素利用の取り組みが目覚ましく、水素還元鉄を商業ベースに乗せようとしている所もあると聞いており、是非視察し意見交換したいと考えています。イタリアはスマートファクトリーへの転換が進む一方で、新エネルギーにかかる取り組みも積極的です。

また、海外貿易会議の裏年に当たる今年度ですが、グローバルサウス調査を始めます。初回として、2月にインドで企画しています。インドはグローバルサウスの盟主として政治的にも市場的にも核になる国であり、初回調査にふさわしいと判断しました。



伊吹 局長

産機工内活動ですが、女性の活躍を後押しする交流会、若手技術者のエンカレッジを目的とした研究会など多様な活動を行っています。50回目を迎える優秀環境装置表彰は企業活動をしっかりサポートするため経産省にご理解・ご協力を頂戴し、水素・アンモニアなどの化石資源代替品製造装置を対象とした資源エネルギー庁長官賞を新設させていただきました。ISOを始めとする産業標準分野では、20年余りの国際標準化活動でノウハウやネットワークなどを蓄積しており、プラスチック加工機械、巻上機械、ポンプの分野では運営委員会の幹事国として、国際会議の議長も務めています。これら取り組みを継続していくためにも、公的な活動費の助成や人的支援について、より手厚いサポートをお願いいたします。

❖ 秋庭専務理事

GX政策にかかると最近の動向についてお聞かせください。

❖ 伊吹局長

官民で150兆円超の投資を打ち出し、官では20兆円規模の先行投資支援を実施しています。日本全体のCO₂排出量の20%以上を占める鉄鋼・化学・紙パルプ・セメントといったHard-to-abate産業では、令和2年度補正予算にて造成した「グリーンイノベーション(GI)基金」により、水素還元製鉄技術や、CO₂を用いたプラスチック、コンクリートの製造技術等、技術開発の加速化や実証に向けた設備投資を支援するプロジェクトが進んでいます。また、成長指向型カーボンライジングの実現に向け、多排出企業の参加義務化等を視野に排出量取引制度に関する法案を国会に提出予定です。これまでは投資支援が先行していましたが、規制・制度的措置についても



金花 会長

企業への負担を考慮しながら少しずつ導入していくことになります。水素関連では、価格差に着目した支援や拠点整備支援によるプロジェクトが今年から動き始めるでしょう。

❖ 秋庭専務理事

産業機械業界の取り組みは如何でしょうか。

❖ 金花会長

当会では、従来より地球温暖化対策を始めとする環境保全への対応を大きな課題であるとして捉えており、CO₂排出量や廃棄物処分量の削減など会員各社とともに取り組んでいます。加えて、私が会長就任以降、水素やアンモニア活用網の実装化、実証・普及などの早期実施に向けた環境整備に貢献できる取り組みを検討しています。

例えば、水素ボイラや水素ポンプなど、水素製品の早期実装に向けた課題の整理、普及に向けた広報など。

より多くの会員企業に水素・アンモニア事業に関心を持っていただけるよう、川崎重工業が様々な社会課題解決に向け開設したソーシャルイノベーション共創拠点 KAWARUBAなども活用して、情報収集の方法や市場環境、先行事例の紹介を進めていきたい。

❖ 秋庭専務理事

当会の脱炭素関連活動への期待や次期エネルギー基本計画の検討状況を紹介ください。

❖ 伊吹局長

産業機械業界はGXを進める主役の業界だと考えています。水素・アンモニアに関しても多くの会員企業の方々がプロジェクトを進めていると認識しています。設備や供給網のユーザーが、適切にコスト負担しなければ持続性がないため、民間だけでなく政府も引き続きサポートしなければならないと改めて感じました。

エネルギー基本計画ですが、昨年末に案をとりまとめました。化石エネルギーへの過度な依存からの脱却を目指し、需要サイドにおける徹底した省エネや製造業の燃料転換等を進めるとともに、供給サイドにおいては、再生可能エネルギーや原子力などエネルギー安全保障に寄与し、脱炭素効果の高い電源を最大限活用することが必要不可欠と考えています。特にDXやGXの進展による電力需要増加が見込まれる中、それに見合った脱炭素電源を十分確保できるかが我が国の経済成長や産業競争力を左右する状況にあります。脱炭素電源を拡大し、我が国の経済成長や産業競争力強化を実現できなければ、雇用の維持や賃上げも困難となるため、再生可能エネルギーか原子力かといった二項対立的な議論ではなく、再生可能エネルギーと原子力をともに最大限活用していくことが極めて重要となります。

❖ 秋庭専務理事

金花会長の受け止めは如何ですか。

❖ 金花会長

昨年欧州を訪問して再認識したのですが、欧州では一昨年あたりから水素・アンモニアを一気に推し進めたものの、先行しすぎて頓挫したプロジェクトが複数あります。

失敗したプロジェクトはオフテーカーがついていない点が特徴です。水素活用については、高コストを補填する価格差補填に加え、CO₂排出に対する罰則も整備すべきだ、という議論になっているようです。最近の欧州では、日本での水素・アンモニアの利用環境が順調に推移している理由に注目が集まっていることを実感したところですが、我が国は政府が水素・アンモニアの生産・流通・貯蔵・用途開発に対して一貫した支援を講じていることが功を奏しているとして評価されています。

❖ 秋庭専務理事

製造産業政策をどう進めていきますか。

❖ 伊吹局長

製造産業局の政策は、GX、DX、経済安全保障の3つの軸に基づく取り組みが重要であると考えています。令和6年度補正予算では、サービスロボット向けのアプリケーション（応用ソフト）開発環境の構築事業や、銅やレアメタル（希少金属）といった重要鉱物の安定確保対策等に関する予算を計上しています。企業の設備投資や開発投資を支援することで、企業の収益性を上げ、賃上げや取引条件の改善による中小企業への波及につなげていきたいと考えています。今年は潮目の変化を定着させることを目指して政策を打ってまいります。

また、4月13日から大阪・関西万博が始まります。多くの方に来場いただき、その経験を友人や子供たちに伝える語り部となっていただくことを期待しています。特に若い方には是非来場いただきたいと思います。これまでの皆様のご協力に大変感謝しています。万博の成功に向けて、引き続きご協力をお願いします。

❖ 秋庭専務理事

産業機械業界の課題は如何でしょうか。

❖ 金花会長

データ連携の活用は今後の競争力の根源となるため、慌てずしっかりと取り組むべきだと考えています。経産省で整備されたウラノスエコシステムは、欧州電池規制が浸透する中でとても有意義なもので、更なる発展を期待しています。一方で、情報化の推進は諸刃の剣でもあり、サイバーセキュリティ対策の体制整備が非常に重要です。ただDX関連は人材が非常に不足しています。また、業界ではエンジニアの確保が困難になっているとの声が多数聞かれています。これらは構造的な課題であります。そのほか、原材料の急激な高騰、サプライチェーン崩壊、BCP実行に際しての諸課題などが顕在化しており、政策的支援を期待します。

万博について。今はSNSなどで気軽に海外の人と触れられる時代ですが、それでも一つ場所に世界中の人が集まる万博は、特別で貴重な機会です。若い方を中心に積極的に参加してもらえよう宣伝していきます。

❖ 秋庭専務理事

産業機械業界の課題に対して、アドバイスをお願いします。

❖ 伊吹局長

貴会は、水素・アンモニア、持続可能な航空燃料(SAF)、合成燃料等について、一つの技術の塊を持っている集団です。日本全体のGXを是非けん引して欲しいと期待しています。また、DX人材については、新規人材だけでは到底足りないので、スキル標準の作成やリスクリングによる現職の方々の能力向上が必要だと考えています。

また、海外に目を向けますと、経産省では、日本企業が東南アジアを中心としたグローバルサウスにGXの取り組みを展開する際に、現地企業との連携等を支援しています。こうした支援制度を活用した現地実証や、政府系金融機関の支援制度を活用しながらビジネス段階へ事業を広げるなど、海外におけるGX需要を積極的に獲得いただくことを期待しています。

❖ 金花会長

局長のご指摘は非常に重要な視点です。先進国だけで脱炭素を実現しても、グローバルサウスで排出していたら意味がありません。日本はアジアゼロエミッション共同体(AZEC)という仕組みがあり、欧州などからも賞賛されています。こうした枠組みを活用して、水素・アンモニア燃焼技術などをアジアに展開できればと考えています。

❖ 秋庭専務理事

本日はありがとうございました。



秋庭専務理事

新年賀詞交歓会

2025年の新年賀詞交歓会は、1月9日午前11時からThe Okura Tokyo プレステージタワー「オーチャード」で開催した。

金花会長の挨拶に続き、来賓の経済産業省 製造産業局長 伊吹英明 殿からご挨拶をいただいた。

金花会長ご挨拶

皆さま、明けましておめでとうございます。

一般社団法人日本産業機械工業会・新年賀詞交歓会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

昨年は、ポストコロナ経済再生の実質的なスタートの年となりました。政治的には、台湾の総統選挙に始まり、ロシアの大統領選挙、日本の総理交代及び総選挙、米国の大統領選挙と選挙イヤーでありました。さらに、「米中対立の常態化」や「東アジアの緊迫化」、「ロシアのウクライナ侵攻の継続」、「中東での緊張の高まり」など、地政学的リスクが増大し、経済安全保障の徹底・強化の必要性に対する認識が強まりました。

さて、世界の経済見通しについて。OECDが昨年12月に公表した世界経済予測では、インフレ率低下、雇用拡大及び金利引下げなどを背景に、世界経済は今後2年間安定的に成長するとの見通しが示されました。しかし、一方で、貿易摩擦と保護主義の高まりから、サプライチェーンが混乱し、消費者物価を押し上げ、成長に悪影響を及ぼす恐れも懸念されており、下振れのリスクを感じる場所でもあります。同じく昨年12月に公表された内閣府月例経済報告では、日本経済は「緩やかに回復している」ものの、景気回復のテンポは緩やかになってきているとの指摘がありました。



金花会長

産業機械業界の状況ですが、当会の受注統計において、昨年4月から9月までの受注総額が前年同期比1.7%増の2兆8,162億円となり、官公需と外需の伸びを背景に、コロナ禍以降で最高を記録しました。

こうした中、産業機械業界が更なる成長を遂げ、日本経済の活性・発展に貢献するためには、グリーントランスフォーメーション（GX）への対応が重要です。昨年末に案が示された「次期エネルギー基本計画」や「GX2040ビジョン」の着実な実行を支えるためにも、会員各社が製造・供給する製品・サービスは不可欠なものであり、業界をあげて、GXに関する技術の開発・実証・社会実装を後押ししてまいります。本年秋に計画している海外貿易会議では、スウェーデンとイタリアを訪問し、現地の先進的な取り組みについて調査し、現地関係者との意見交換を実施してまいります。

さらに、我が国の経済安全保障への対応として、サプライチェーンの再整備に必要な、生産設備やサービスの提供に取り組めます。

当会は、こうした社会の変化や課題に応え、地球環境保全、国際交流、標準化などの各種事業を推進し、また、政策提言を積極的に行うなど、産業機械業界並びに会員企業の皆様の事業発展に向けた活動に力強く取り組んでまいります。

政府におかれましては、昨年12月に成立した補正予算に盛り込まれた「日本経済・地方経済の成長」、現在パブリックコメント中の「エネルギー基本計画」や「GX2040ビジョン」などへの対応を着実に実施していただくとともに、水素・アンモニアなどの新エネルギーの活用を含むGX事業の社会実装に取り組まれますことを期待しております。

本日は政府関係の皆様にもお越しいただいております。本年もどうぞよろしく、ご指導並びにご支援をお願いいたします。

この後伊吹局長よりご挨拶をいただきますが、本年は大阪・関西万博の年です。ご自身はもちろんのこと、ご家族や従業員の方々にも、何度でも足を運んでいただくようお願いいたします。

最後になりますが、会員各位のご発展と、ご臨席の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



伊吹製造産業局長

伊吹製造産業局長ご挨拶

皆様、あけましておめでとうございます。盛大に新年賀詞交歓会を開催できることを心よりお慶び申し上げます。金花会長から、大阪・関西万博について素晴らしい前振りをいただきましたが、それは最後にお話をさせていただきたいと思えます。

昨年は、1月1日に能登半島で地震がありました。被災された方々に改めて心からお見舞い申し上げます。また、復旧・復興に向けて様々な業界の方々にご心ごもったサポートをいただきましたことをこの場を借りてお礼申し上げます。政府でも、経済産業省を含めて、復旧・復興に全力で取り組んでいきたいと思えます。

経済について、昨年は国内では良い数字がありました。経済政策を行う時に経済産業省は特に設備投資と賃上げを見るのですが、設備投資は100兆円超えて過去最高となり、賃上げについては5%を超える水準で中小企業でも4%台半ばとなり、こちらも33年ぶりの高い賃上げ率でした。

株価も約42,000円までいき、名目GDPも約600兆円となりましたので、変化の兆し・明るい兆しが出た1年だったと思っています。

今年はこれを定着させ、成長型の経済に移行していくことを確認できると良いと思っています。その中で、総合経済対策や補正予算など様々な政策を準備しています。皆様の業界にもお役に立てる政策がございますので、是非一緒に経済を盛り上げていければと思います。特に設備投資、賃上げ、それから中小企業の方々が賃上げの原資を確保するために価格転嫁や取引改善についても、関連する法案も用意しておりますので、業界でも是非積極的に取り組んでいただければと思います。

地政学的なことは先ほど会長からお話がありましたが、一つだけ申し上げますと、皆様が今一番心配されているのはアメリカがどうなるのかということだと思います。二国間関係の土台はやはり強固な経済関係ということだと思います。特に日米は投資の関係が非常に強いので、安心して日本企業が投資を判断できる関係を整える必要があると思います。このようなことは新しい政権に対して日本政府からもしっかり伝えて、日本の国益に資する形で日米の経済関係を一層発展できる年にしていきたいと思っています。

政策のテーマとしてはDX、GX、経済安全保障があります。DXは複数年度にわたり半導体への投資を応援する仕組みを国会でご審議をいただき、進めていこうとしております。日本産業機械工業会の皆様との関係では、やはりGX、カーボンニュートラルの取組が一番重要な政策であると思います。先ほどご紹介いただいたとおり、第7次エネルギー基本計画、GX 2024ビジョンの案を年末にとりまとめました。この中で、再エネも原子力も最大限活用していき、脱炭素電源を新しい産業集積に繋げていくということが基本的な中身であり、今年はこちらを具体化していくというプロセスに入ります。皆様の業界はGXを進める上で主役の業界です。GX、省エネを進めていく際に必要なインフラ構築や機器製造を担っているのは皆様です。水素やアンモニアなどが注目

されていますが、基礎的な機械であるボイラやポンプなどの技術も必須であり、皆様方の力が必要です。

また、アジアを中心に日本のGX技術を活かし、どのようにビジネスを獲得していくかということが非常に大事な論点であると思います。こちら政府でグローバルサウスに関する政策を準備していますので、皆様からアイデアをいただき、アジアでもGXの取組を拡大していきたいと思っています。

大阪・関西万博について、立候補から8年間経過し今ようやくここまでできました。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。テーマを決めた時は想定していませんでしたが、我々はその後コロナ禍を経験しました。ポストコロナ後において、数十年後に自分たちはどのような社会であれば幸せなのか、最新技術の社会実装を含めて世の中に訴えていくということが今回の万博の意義だと思います。非常に面白いものになると思いますので、是非大阪にお出かけいただき、数十年後の世界を体験し、世界中の人と交流するという万博の本来の意義を楽しんでいただければと思います。

経済産業省から一点お願いがあります。日本産業機械工業会の皆様には従来からご協力いただいておりますが、福島の復興を最後までやり切ることが経済産業省の使命でございます。三陸常磐をはじめ日本の水産物をたくさん召し上がっていただく活動を継続的にお願いしたいと思います。社食や貴会のようにイベントに用いるなど、色々な方法がありますので是非ご協力お願いいたします。

最後になりますが、今年の干支は乙巳（きのとみ）ということで、脱皮を繰り返して成長していくことが期待される年です。日本経済・世界経済について、芽吹き始めた明るい兆しを大切に育て、脱皮をして成長型に移行していくことを皆様と確認できる1年になりますよう、日本産業機械工業会の皆様のご活躍、ご健勝を祈念したいと思います。本日は誠にありがとうございました。ありがとうございました。

新年賀詞交歓会

関西支部

2025年の新年賀詞交歓会は、1月10日正午からリーガロイヤルホテル「クラウンルーム」で開催した。

谷所関西支部長の挨拶に引き続き、来賓の経済産業省近畿経済産業局長 信谷和重 殿からご挨拶をいただいた。

谷所関西支部長ご挨拶

皆様、新年明けましておめでとうございます。本日も大変ご多忙の中、近畿経済産業局の信谷局長をはじめ、多数の来賓の皆様、会員企業の皆様には、日本産業機械工業会関西支部の新年賀詞交歓会にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。年頭にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

さて、昨年は、日本、アメリカをはじめ多くの国で選挙が相次ぐ世界的な「選挙の年」でした。アメリカにおけるトランプ氏の再選など、現政権が敗北した国も少なくなく、今後の政策動向に注視すること必要かと思っています。

また、今週は経済三団体の新年賀詞交歓会が大阪と東京であり、大阪は大阪・関西万博の話題一色であったようですが、東京は多くの社会課題等について発言があり、最後に大阪・関西万博のチケット購入のお願いが話題が上がったようです。東京では、万博のバッチを付けている方をほとんどお見かけせず、大阪と東京での万博に対する温度差を感じた次第です。ご参考までに、東京の会場で石破総理が万博についてご発言されたことを紹介します。1970年の前回大阪万博では、石破総理は当時小学生だったそうで、計3回行かれ、行列に3時間並んでアメリカ館の「月の石」を見学されたことを覚えているそうです。

一方、昨年の日本経済は、33年ぶりに賃上げ率が5%以上になりましたが、物価の変動を反映した労働者1人当たりの実質賃金は、4か月連続でマイナスになったようです。このため、今年の春闘の状況を注視していきたいと思えます。



谷所関西支部長

また、IMF(国際通貨基金)による世界経済見通しでは、2025年の成長率は全体で3.2%と予測されていますが、そのうち、先進国は1.8%、新興・途上国は4.2%の成長率となっています。このため、今後、成長著しい新興・途上国、いわゆるグローバルサウスに対して、日本企業がどのように進出していくかが課題となってくると思われます。

こうした経済環境の中で、産業機械の状況ですが、当工業会の受注統計では、昨年4月~9月(年度上半期)の受注総額が前年同期比1.7%増の2兆8,162億円となり、年度上半期の受注金額としてはコロナ禍以降で最高を記録するなど非常に好調です。引き続き、好調を維持していくことを期待しています。

続いて、地元の関西経済の状況についてですが、関係機関の発表によると、全体としては、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復しているようです。製造業は、悪くはないが大して良くもなく、「ぼちぼち」の状況だと思っています。一方で非製造業は、インバウンド効果もあり、個人消費が増加して、ホテルや百貨店をはじめ好調を続けている状況にあります。

こうした中、いよいよ今年は大阪・関西万博の開幕を迎えます。私は昨年12月に現地を見学する機会がありましたが、建設工事は順調に進んでおり、開催に問題ないと思います。是非、皆様、ご家族と一緒に未来社会を体験するために万博に行ってほしいです。私も是非行きたいと思っています。

1970年の前回大阪万博は、当時私は大学生でしたが、万博に2回行き、今でも、アメリカ館の「月の石」を見たことを覚えています。総来場者数は6,400万人であったようですが、ほとんどが日本人だったと思います。私の実感としては、当時の日本人はまだ海外に行く機会が少なく、万博の会場で初めて外国人に会うなど、万博を通じて海外を体験したように思います。しかしながら、現在は日本へのインバウンド来訪が多く、また、日本企業のグローバル化も進展するなど、海外が身近になっています。今回の万博では世界中から多くの要人などが訪れるため、この機会を活用され、皆様にとって次のビジネスにつながればと期待しています。

また、ポスト万博や Beyond万博も重要であります。関西では、うめきた2期(グラングリーン大阪)、新大阪や三宮の駅前再開発、大阪なにわ筋線の建設工事など複数の大型投資案件が動いているため、万博が一過性のイベントで終わることなく、2025年を起爆剤にして、関西経済の成長を皆で盛り上げていきたいと思っています。

今年の干支は巳年です。「巳」は脱皮しながら、成長するという意味です。昨年12月にOECD(経済協力開発機構)が発表した「国際成人力調査」によると、日本人は全3分野で、読解力(2位)、数的思考力(2位)、問題解決能力(1位)と世界トップ水準でありました。ところが残念なのが、24歳をピークに右肩下がりで低下している状況です。再教育が大事ですが、会社に入ってしまうとなかなか新たな勉強ができなく、これでは「脱皮」が足りないことになります。今年は、GX、DXなど新しい分野の勉強を行って、新たな「脱皮」ができる年にしたいと思っています。

最後になりますが、日本産業機械工業会並びに関西支部、本日ご出席各社のご発展及び本日ご参集の皆様の今年一年のご健勝とご多幸を祈念といたしまして、新年の挨拶に代えさせていただきます。



信谷近畿経済産業局長

信谷近畿経済産業局長ご挨拶

新年明けましておめでとうございます。近畿経済産業局長の信谷でございます。本日はこのような場にお招きいただきましてありがとうございます。また、平素より私ども経済産業行政にご理解とご協力いただき、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

さて、年が明けまして、いよいよ大阪・関西万博です。開幕まで後93日です。指折り数えて待つ時期となってまいりました。この万博の招致が決まったのが2018年、6年半の歳月を掛けて準備してきた万博です。

その間、コロナがあり、ロシアのウクライナ侵攻があり、物価の高騰があり、いずれも予想もしなかったような困難でしたが、大阪・関西の皆様方の努力と粘りでここまで来ました。是非とも成功させたいと思っております。

今から55年前、千里で開催された大阪万博は、今でも、私より上の世代の方々には楽しかったとおっしゃいますが、今回の万博はそれ以上に楽しくないといけなと思っています。「あの夢洲の万博は楽しかった」と是非

皆で言いたいですし、これから50年間、自慢できる万博に出来ればと思っています。

また、今年、阪神・淡路大震災から30年になります。昨年の元旦には能登半島地震がありました。この30年の間に震度7の地震が日本で6回も発生しています。また、大雨や台風など、異常気象による災害も多く発生しています。今後とも災害への備えを十分に行っていくことが必要です。

そして、景気です。先程、谷所支部長から、景気は「ぼちぼち」というお話をうかがいましたが、経産省の若手時代に、「大阪の人は何があっても『ぼちぼち』としか言わない」、「『ぼちぼち』と言ったら相当良い」と教わりましたので、今日は随分気分が明るくなりました。

政府の来年度の経済見通しは、実質成長率1.2%です。インフレが少し落ち着いて内需を拡大するということです。今年度は0.4%と見通していますので、さらに明るくなるということです。その鍵は賃上げと投資の好循環、成長型経済への転換です。皆様には、お願い事ばかりで恐縮ですが、賃上げと投資をさらに進めていただければと思います。

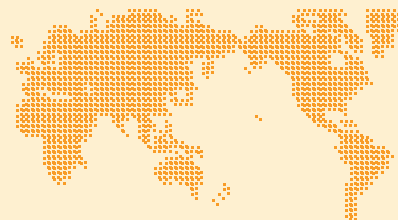
一方、世界経済を見ますとトランプ大統領のアメリカや中国経済などの不安要因があります。また、国内においても物価上昇や人手不足等の課題があります。政府としましては昨年13.9兆円の経済対策を打ち出し、そのうち4.4兆円が経産省関係補正予算になります。また、来年度予算として経産省では約2兆円を計上しており、これら合わせると、経産省の予算は今後15ヶ月間で約6.5兆円に上ります。この予算を是非多くの関西企業にお使いいただきたいと思っています。このため、「この補助金を使いたい」とのご要望やご相談がございましたら、ご遠慮なく、近畿経済産業局の職員を会社へ呼んでいただければと思います。

大阪・関西万博は、今年10月に終わりますが、その後も大事です。万博で示した様々な技術、例えば、水素やヘルスケア、空飛ぶクルマなど色々な技術が出てきますが、これを社会実装していかないといけないと思います。

このため、ここにも先程の予算をしっかりと使い、万博が成功し、その後、関西経済が発展して、日本経済を引っ張っていければと思っています。

本日は万博のご協力のお願いや、賃上げ、投資などでお金を使ってほしい話ばかりで大変恐縮でございましたが、こうして世の中をぐるぐると回していければ、明るい一年になるのではないかと思います。

最後になりますが、本年が皆様にとって幸多く、実りの多い一年となりますことをお祈りいたしまして、私の新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしく願います。



現地から旬の情報をお届けする

Part
1

駐在員便り in ウィーン

～海外情報 2025年1月号より抜粋～

ジェトロ・ウィーン事務所 産業機械部

佐藤 龍彦

皆様、あけましておめでとうございます。本年もよろしく
お願いいたします。

12月最初の2週間ウィーンは、最高気温1℃前後の
寒日が続いたかと思えば、10℃近くまで上昇する日もあり
不安定でした。特に12月16日は最大瞬間風速45km/h
のかなり強い風が吹きました。ただ、幸いにもまだ雪は
降っていません。

日本では北日本の日本海側を中心に、大雪や吹雪など
による交通事故などが起きているとのニュースに接して
おり、年末年始のご旅行や
帰省時などくれぐれもお気を
付けください。

さて、この時期オースト
リアは全体的にクリスマスや
スキーなどのウィンター
スポーツの空気が濃くなり
ますが、地元の方はクリス

マス・年末年始をまたぐ長期休暇を利用した帰省や国外
旅行にも関心が向くようになります。確かに街の景色や
イベントがあまりにも変わり映えしないため、3年しか
いない私もその気持ちが分かるようになりました。

事務所の現地職員（ナショナルスタッフ）の多くは、
貯まった有給休暇や代休などを活用し、オーストラリア
（オーストリアの誤記ではありません）大陸横断にチャレ
ンジしたり、日本やタイなど他の遠隔地へ長期旅行に

出るようです。欧州で最後の
冬となる私の場合は帰
国せず、行っても近場を
選ぶようにしました。

最近、私のなかでの新たな
イベントは、ウィーンに着任
して間もないある方から
聞いたウィーンの「競馬」で
す。調べてみると、ウィー
ンのプラーター公園近くに



ウィーンの日常風景に溶け込んでいる馬車

Galopprennbahn Freudenau及び、Trabrennbahn Krieauの2ヶ所があり、どちらも歴史ある競馬場とのことでした。考えてみると、乗馬や馬車はオーストリアやウィーンの街中で日常的に見かける大変身近な存在です。競馬場も当然想像ができるはずですが、恥ずかしいことに、これまで知りませんでした。

ウィーンでは、日本で一般的な「平地競走（騎手が直接馬に跨りギャロップ競走する）」と、騎手が繫駕車という一人乗りの二輪馬車に乗る「繫駕速歩^{けいがそくほ}」の2種類があるようです。Krieauは1878年に開設された繫駕速歩がメインの競馬場とのことで、7~8月の盛夏期を除いて毎週レースが行われます。他に有名な競馬場は、ウィーンの南郊外EbreichsparkにあるMagna Racino（2004年開設）

という場所で、4~11月の間に平地及び、繫駕速歩の両スタイルの通常レースに加え「オーストリア・ダービー」も開催されるとのことです。

その方はKrieauの繫駕速歩競馬を経験されたとのことですが、この時期の夕方は事実上の「ナイター」で、強い風が吹く寒い中でのレースだったようです。ただ、1ユーロの少額から賭けることができ、施設内からでも観戦できるため、手軽にオーストリアでの競馬を楽しむには良い場所だと思います。

日本でも競馬場に行ったことはありませんでしたが、現在住んでいる場所の近くにあり、手軽（ダメージも少ない）に楽しむのであれば、一度は経験のため足を運んでみたいと思います。



現地の旬な情報

駐在最後のクリスマスをごどのように過ごしますか？

2024年、最後のクリスマスの過ごし方(予定)をご紹介します。

1. これまで訪問できなかった場所へ行く【写真1】

クリスマス（12月25日）前後が休日となりますので、駐在期間を通して公私で訪問できていない場所を訪ねる予定です。フィンランドのサンタクロース村や、アイスランドのオーロラ観賞など華やかな過ごし方もありますが、慎ましく隣国チェコ（1泊2日程度）を訪問します。

2. その土地のクリスマスを経験する？【写真2】

キリスト教徒はもちろん、ほとんどの欧州人にとってクリスマスは、基本的に家族や親戚単位で集まり共に過ごす、日本でいうお正月のような時期です。特に12月25、26日はオーストリアやチェコを含む欧州のほとんどで祝日のため、

施設や商店の多くが休業します（24日は平日ですが閉店時間はいつもより早い）。

静かな本場（本来）のクリスマスを経験できそうですが、「食料/レストラン難民」にならないためにこの時期は、基本的に自宅、ロンドンのようなグローバルな大都市、あるいは、欧州域外で過ごすのがベストのようです。

3. 予算と相談

夢のない話ですが、自宅ですぐ以外、航空券やホテル滞在などのため大きな出費を覚悟することになります。そのため、チェコの小旅行の後は、年末の大掃除などをしてウィーンの自宅で慎ましく過ごすことになりそうです。



写真1 プラハのクリスマスマーケット



写真2 クリスマスツリーと教会

ジェットロ・シカゴ事務所 産業機械部

川崎 健彦

皆様、こんにちは。ジェットロ・シカゴ事務所の川崎です。
もう完全に冬と呼んでいい時期です。とはいえ暖冬の
情報もあり例年よりましだと思っておりましたが、ナショナル
スタッフによると時折訪れる最低気温マイナス十数℃の
寒さはこの時期にはあまりないとのこと、人間の感覚
なんていい加減なものだなと感じている毎日です。

さて、先月の続きで、もう一つの目的地について書
きたいと思います。それは映画「ホーム・アローン」のマカリ
スター家です。シカゴの北部、ミシガン湖沿いの郊外の
高級住宅地ウィネトカというところにあり、以前からずっと
気にはなっていたのですが、いつか行けるだろうと先延ばし
にしていた場所でした。しかし残された時間も少なくなって
きたこともあり、またターキーを購入した肉屋の近くであった
ことから、ついでに訪れてみることにしました。

ナビの指示どおりに車で行き、現地に着きました。
「マカリスター家」の向かいにはパトカーが止まっており、

万が一起こるかもしれないトラブルに備えて警官がそれと
なく警戒しています。

とはいえ、たまに観光客が訪れるぐらいで特段混んで
いることもなく、いたって平穏でのんびりした秋の夕方の
住宅地の雰囲気です。ちなみに住宅は狭いので内部の
ロケは別のところで行われたとのことでした。帰り道、
映画で使われた教会も近くにあったのでついでに訪ねて
みました。こちら近所ではあまり見かけないような立派な
教会で、中に入ることはありませんでしたが一通り眺めて
帰路につきました。

次に、購入したターキーですが、こちらは様々なスパイス
と野菜のプロス（スープ）で作ったブライン液に1日漬け、
取り出してオーブンで焼いて完成です。例年とは異なり
長時間かけて解凍することもなかったので時間もかからず
あっけなく終わりましたが、冷凍がいいのか生がいいのか
ネットで調べたところ、様々な意見があるようで「冷凍でも



マカリスター家

調理法をしっかりとすれば変わらない」や「そういったものは育て方から違うから明らかに味が違う」など、いろいろな情報が錯綜しています。

このような議論は、著名なビジネス誌でも当たり前議論されているのが面白いところで、さすがDIYの国、さすがバーベキューの国、これだけでなく自分で作る様々な料理などにも多数掲載されています。なかなか面白いので日本に帰ってから間違いなく見続けることになると思います。

ちなみに自分の感覚では、今回購入したターキーは明らかに鮮度が高く、店の前の行列は納得できます。

なお、通常ターキーにはその長い首の部分と、ハツ、砂肝のような部分も付いてきます。これらは後日別の料理に使います。

さて、この時期はあちこちの家から火災報知機の音が聞こえますので、きっと皆さん焼いているのではないかと推測していますが、アメリカでのターキーの消費量は数千万羽ともいわれますので間違いのないと思います。ちなみにUSDAによれば直近2023年の年間生産量は2億1,800万羽なのだそうで、約2割がこの期間に消費されていることとなります。

それではまた。



現地の旬な情報

駐在最後のクリスマスをごどのように過ごしますか？

① クリスマスツリーを飾る

この時期、日本でいうと正月飾りの臨時販売所のように、近所に生の木の臨時販売所が設置されたり、ホームセンターに販売コーナーが設けられたりします。そこにある様々な種類、大きさ、枝ぶり、値段の木のなかから気に入ったものを選び、車の屋根に括りつけて持ち帰る一連の行事はなかなか体験できるものではないと思います。購入した木は室内でスタンドに立てて設置し、あちこちで買い集めたオーナメントを付け、今年はシンプルに行くのかカラフルに行くのかと考えながら全体のデザインを決めていくのは楽しいものです。室内にツリーがやってくると室内はとてもいい木の香りで満たされます。旅行ではなかなか体験できないクリスマスの過ごし方です。



① 販売されているツリーと持ち帰り方

② クリスマス・マーケットに行く

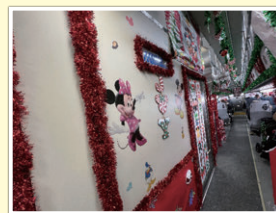
シカゴではこの時期クリスマス・マーケット (Christkindlmarket) が設置されています。ヨーロッパのオリジナルのマーケットと異なり、シカゴのクリスマス・マーケットはドイツのオーナメント、シカゴオリジナルのオーナメント、インドのオーナメント、アメリカナイズされたドイツの食べ物など、アメリカならではの様々な文化が融合した雰囲気が特徴です。グリユエルチーズを溶かして、ソーセージなどとともに美味しいパンにはさんだサンドイッチの店は毎年長蛇の列で、これを目当てに毎年クリスマス・マーケットに行きます。



② Christkindlmarket の様子

③ ホリディ・トレインに乗る

この時期、クリスマスの飾り付けをした電車が走ります。ただ外側にカラフルな電飾をつけただけでなく、車内までしっかり飾り付けられており、車両ごとにそのテーマが異なります。飾りつけも全て職員の方の手作りで行われたことが伺え、装飾の度合いや完成度の高さやを考えると非常に手間がかかっていることが感じられます。この時期にシカゴに来る予定がある方は是非スケジュールに入れてみてください。



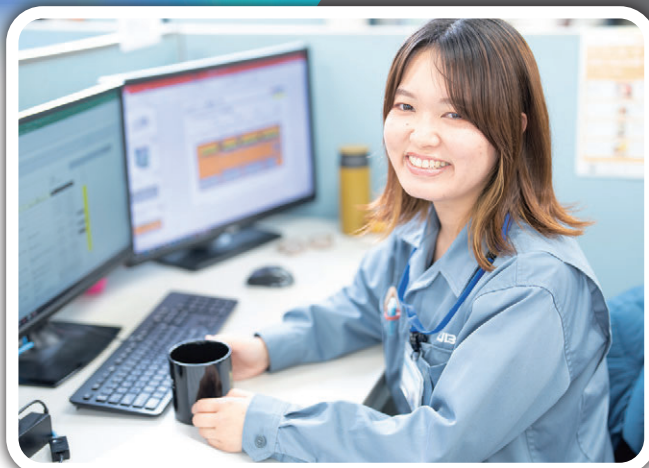
③ 各車両の内部の様子

わが社の ダイバーシティ

No. 11

女性エンジニア活躍中！

UBEマシナリー株式会社
射出成形事業本部
名古屋射出成形機技術部 開発グループ
係員 堀 彩子 さん



2022年1月号のコラム“輝くりケジョ”に、ご登場いただいたUBEマシナリー株式会社の堀(旧姓 梅谷)彩子さん。2018年に入社し、現在ではより専門性の高まったプラスチック射出成形機の開発業務を担っている。結婚を経てライフステージが変わった堀さんに改めてお話を伺った。

「以前の取材時と変わらず、プラスチック射出成形機の開発をしています。次期機種となる最初の一台を製作した後でお客様の要望に応じて仕様手を加えていきますが、私が手掛けているのはその雛形となる初号機です。当社の既存の製品を更に高性能化し、コストダウンした新シリーズをお届けすることがミッションです」。堀さんが開発し、上市したシリーズは締付力1,050～2,000tの大型機で、主に自動車メーカーの工場インパネなどを成形するのに使われている。

「3D-CADを用いたモデリング業務や強度解析を自分で実施できるようになり、より詳細な設計業務を担当することが増えました。専門性の高い部分も、勉強して自分で進められるようになったことで開発の効率も上がり、改善の

アイデアを実現していくプロセスがスムーズになりました。以前と比べて設計の思想も深まっていると思います」。

堀さんは組み上がった初号機を実際に動かし、応力測定などを行う検証業務も担当している。「破損などの事故が起きてしまったら大問題なので安全率をしっかり確保しながら、過去の実績から得られたノウハウも受け継ぎ、周囲の方の意見を聞きながら設計を進めています」。

また、納入先の工場で実稼働している機械の状況を確認すべく設計者である堀さんが点検作業を行うこともある。「最近では工場働く女性も増えてきました。少しでも機械の高さを抑えれば、彼女たちの負担を減らすことができるなど、現場に行かなければ分からないことがあります。それを設計に活かし、

前の機械に比べて『油汚れが減った、昇降がしやすくなった』といった声を聞けるのは嬉しいです」。

働きやすい環境を作るために心掛けているのは、察してもらうのではなく自分からこまめに伝えるようにすること。「結婚や出産で優先すべきことが変わったとしても仕事は続けていきたいので、子育てなどのプライベートとの両立を試行錯誤しながら探っていこうと思います」。

最後に、これから技術分野への進出を目指している理系の後輩たちへのメッセージを聞いてみた。「技術分野には、ものづくりの面白さ、人とのつながり、世代を超えて受け継がれてきた知見など、感性を刺激してくれるたくさんの楽しさがあります。エンジニアの世界へ思い切って飛び込んでください」。

上司から
ひと言

UBEマシナリー株式会社
射出成形事業本部
名古屋射出成形機技術部
開発グループ
グループリーダー 杉田 俊道 さん

お客様にベストソリューションを提供できる設計者として 更なる活躍を期待しています。

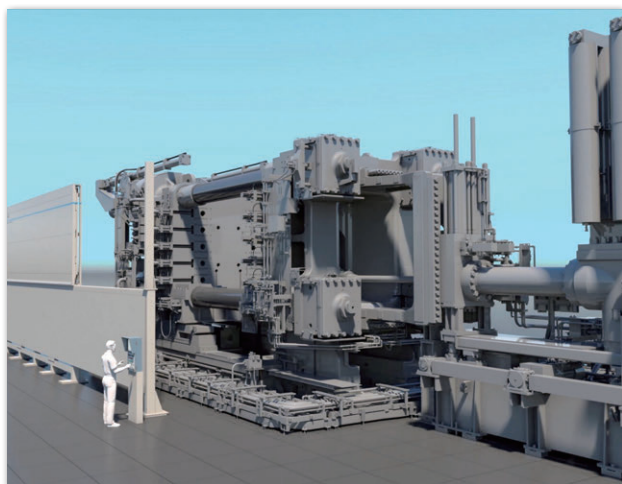
堀さんはキャリア採用で入社し、現在は新機種開発の設計を担当しています。新機種開発業務は、お客様を始め社内外の多くの方々から最適解を模索し、新しい機械を作り上げていく業務ですが、持ち前のコミュニケーションスキルを活かして皆様に満足いただける製品の開発に貢献しています。また、サプライヤーと協力して勉強会を企画するなど後輩の面倒見も良く、近い将来、新機種開発の設計リーダーとなって、更に活躍してくれることを期待しています。

110年の歴史とともに ~from UBE to the world~

UBEマシナリー株式会社

UBEマシナリー株式会社は、1914年に山口県宇部市にて創業。UBE（旧：宇部興産）グループ機械事業の中核企業として、新たな技術に挑戦し続け業容を拡大してきた。国内生産拠点は宇部市の本社工場と、2020年に誕生した名古屋事業所。支店、営業所、サービス拠点を合わせて国内18拠点、海外にも7カ国16拠点を持つグローバルカンパニーである。

UBEマシナリーが手掛ける製品は多岐にわたる。アルミニウムを主とする軽金属を材料に自動車用エンジン等を成形する「ダイカストマシン」、アルミサッシ等の建築用建材や自動車をはじめとした輸送機用産業材などを作る「押出プレス」、樹脂を材料に自動車内装部品や家電材の部品を成形する「射出成形機」、セメント生産に欠かせない「窯業機」「粉碎機」、発電所等で活躍する「運搬機」「除塵機」のほか、化学プラントを構成する「化学機器」、鋼橋など大型溶接構造物を手掛けている。



型締力9,000トンの超大型ダイカストマシン

「ギガキャスト技術」を実現 ～超大型ダイカストマシン～

2023年9月、自動車製造に新たな潮流を生み出す「ギガキャスト技術」を実現する超大型ダイカストマシン（型締力6,500トン）を大手ダイカストメーカーより受注。2024年9月には型締力9,000トンの超大型ダイカストマシンの開発・上市を発表。日本国内初のギガキャスト対応のダイカストマシンメーカーとして、その存在価値を高めている。

2020年頃から、米国の電気自動車（EV）大手テスラ社がギガキャストを導入。日系メーカー向けが多いUBEマシナリーでは同3,000～3,500トン級の引き合いが長く続いていたが、数年間に及ぶ試行錯誤と実績を経て、型締力を9,000トンに高めた。

ギガキャスト技術は従来数十個もの部品で構成されていた車体構造部品の一体成形を可能とする手法で、部品点数や製造工程の大幅な削減も期待され注目度が高い。今後もギガキャスト用超大型ダイカストマシンの提供を通じて、自動車産業におけるモノづくりの変革に貢献していく。

これからもUBEマシナリーは、“製品”、“サービス”、そして“ひと”との融合・調和から生み出される、心をこめた『いいもの』を世界にお届けしていく。



観光名所となっている角島大橋（当社一部施工）



米国ミシガン州の生産拠点

本部

総会

11月21日 臨時総会

リーガロイヤルホテル大阪「ペリドット」において開催し、金花会長の挨拶の後、議事録署名人が選定された。議事は次のとおり行い、原案どおり承認・決定した。

- (1) 理事補充選任の件

運営幹事会

11月21日 第114回運営幹事会及び関西地区会員との合同会議

議長から議事録署名人が選定され、次の事項について報告及び審議を行った。

- (1) 統計関係(2024年9月分、2024年度上半期分)
- (2) 工業会の活動状況(2024年10月1日～31日分)
- (3) 海外情報(2024年11月号)
- (4) 幹事補充選任
- (5) 政策提言—
CN実現を指向する日本経済の成長に向けて(案)

議事終了後、次の講演を行った。

テーマ：大阪・関西万博と関西経済の未来

講師：信谷 和重 殿

経済産業省 近畿経済産業局長

理事会

11月21日 臨時理事会

常務理事補充選任について審議を行い、承認した。

11月21日 第609回理事会

次の事項について審議を行い、承認した。

- (1) 幹事補充選任
- (2) 政策提言—
CN実現を指向する日本経済の成長に向けて(案)
- (3) 2024年度上期工業会活動状況

表彰

11月6日～29日 第50回優秀環境装置表彰 実地調査

審査WGにおいて実地調査を行い、申請内容等を調査した。

会員福利厚生

11月22日 2024年度第2回会長杯ゴルフ大会

茨木カンツリー倶楽部において26名の参加を得て開催した。

部会

化学機械部会

11月7日 技術委員会

- (1) 見学会
兵神装備株式会社 滋賀事業所(滋賀県長浜市)を訪問し、プロダクトスクエア(モノポンプやモノディスペンサーなど40台を超える製品のショールーム)を見学した。
- (2) 委員会
次の事項について報告及び検討を行った。
 - ① SAF(持続可能な航空燃料)に係る技術概要
 - ② 海外施設調査の総括
 - ③ 2024年度下期活動内容
(非破壊検査・計測講座、若手社員育成講座)

環境装置部会

11月1日 エコスラグ利用普及委員会 自治体連絡会施設見学会

相模原市南清掃工場(神奈川県相模原市)を訪問し、エコスラグの生産・管理・有効利用状況について調査を行った。

11月1日 環境ビジネス委員会 施設調査

苫小牧市役所及び日本CCS調査株式会社 苫小牧CCS実証試験センター(北海道苫小牧市)を訪問し、二酸化炭素回収・有効利用・貯留(CCUS)について調査した。

11月1日 環境ビジネス委員会 デジタル・AI分科会

今年度の活動状況について報告し、今後の活動内容について検討を行った。

11月1日 環境ビジネス委員会 講演会

次の講演を行った。
テーマ：DXソリューションのご紹介
～DX統合パッケージを基盤とした展開について～
講師：藤本 夢二 殿
株式会社大塚商会
業種 SI プロモーション部 部長

11月6日 環境ビジネス委員会 施設調査

岩手中部クリーンセンター(岩手県北上市)を訪問し、稼働から10年を経過した同施設の運営状況及び同施設

で行われた技術実証について調査を行った。

11月7日 環境ビジネス委員会 施設調査

岩手地熱株式会社 松尾八幡平地熱発電所（岩手県八幡平市）を訪問し、国内では22年ぶりに稼働した、発電端が7,000kW超の地熱発電所の事業背景及び稼働状況について調査した。

11月7日 環境ビジネス委員会 施設調査

株式会社八幡平スマートファーム（岩手県八幡平市）を訪問し、地熱水及びIoTを活用したバジル栽培について調査した。

11月8日 環境ビジネス委員会 有望ビジネス分科会

今年度の活動状況 について報告し、今後の活動内容について検討を行った。

11月8日 環境ビジネス委員会 講演会

次の講演会を行った。

テーマ：再生可能エネルギーの導入拡大を実現する蓄熱発電

講師：岡崎 徹 殿

一般財団法人 エネルギー総合工学研究所

プロジェクト試験研究部

新エネルギーグループ 主管研究員

11月14日～15日 部会 秋季総会及び施設調査

(1) 秋季総会

2024年度事業進捗状況について報告を行った。

(2) 施設調査

次の2件の施設調査を行った。

- 合同会社境港エネルギーパワー 境港バイオマス発電所（鳥取県境港市）を訪問し、パーム椰子種殻を主としたバイオマス発電について調査を行った。
- 三光株式会社 潮見コンビナート（鳥取県境港市）を訪問し、廃棄物の再資源化及び熱回収利用について調査を行った。

11月21日 資源循環交流会 企画WG

今年度の活動状況について報告し、今後の活動について検討を行った。

11月21日 資源循環交流会・環境ビジネス委員会 共催講演会

次の講演を行った。

テーマ：成長志向型の資源自律経済の確立に向けた取組について

講師：小川 ゆめ子 殿

経済産業省 GXグループ 資源循環経済課

課長補佐

11月27日 環境ビジネス委員会 本委員会

今年度の各分科会の活動状況について報告し、今後の活動について検討を行った。

11月29日 環境ビジネス委員会 水分科会

今年度の活動状況について報告し、今後の活動内容について検討を行った。

11月29日 環境ビジネス委員会 講演会

次の講演を行った。

テーマ：熊本市下水道事業における漁業・農業との連携・協業による下水道資源の活用
～40年に及ぶ地域との信頼関係の構築～

講師：藤本 仁 殿

熊本市上下水道局計画整備部 部長

■ タンク部会

11月20日 施設見学会

佐賀市清掃工場（佐賀県佐賀市）を訪問し、脱炭素化に向けたCO₂分離設備、CO₂利用施設（微細藻類栽培池、キュウリ栽培ハウス等）を見学した。

■ プラスチック機械部会

11月8日 ISO/TC270押出成形機分科会

次の事項について報告及び検討を行った。

- (1) ISO 22506（押出機—安全要求事項）規格案に対する各国コメント
- (2) WG2大連国際会議への参加準備

11月28日 特許委員会

次の事項について報告及び検討を行った。

- (1) 射出成形機に係る米国、欧州の特許
- (2) 射出成形機に係る中国の特許及び実用新案
- (3) 講演会の開催

■ 風水力機械部会

11月7日 汎用送風機委員会秋季総会

次の事項について報告及び確認を行った。

- (1) 2024年度上期事業報告案及び下期事業計画案
- (2) 空調用送風機の出荷統計調査
- (3) 公共建築工事標準仕様書の改訂

11月11日 排水用水中ポンプシステム委員会

次の事項について報告及び検討を行った。

- (1) 秋季総会総括
- (2) 水中ポンプの維持管理資料
- (3) 委員会の新規事業

11月14日 汎用圧縮機委員会秋季総会

次の事項について報告及び確認を行った。

- (1) 2024年度上期事業報告案及び下期事業計画案
- (2) 優秀製品表彰

11月18日 講演会

次のテーマで講演及び意見交換を行った。

講演テーマ：栗本鐵工所の女性活躍推進

講師：周藤 雅美 殿

株式会社栗本鐵工所

人材開発部 人材開発グループ長

意見交換テーマ：女性活躍のための企業の取り組みについて考える

11月21日 汎用ポンプ委員会秋季総会

次の事項について報告及び確認を行った。

- (1) 2024年度上期事業報告案及び下期事業計画案
- (2) 公共建築工事標準仕様書の改訂
- (3) 機械設備工事監理指針の改訂

11月21日 送風機技術者連盟秋季総会

次の事項について報告及び確認を行った。

- (1) 2024年度上期事業報告案
- (2) 海外視察
- (3) 事例発表

次の発表を行った。

テーマ①：表面テクスチャリング技術の紹介

発表会社：イーグル工業株式会社

テーマ②：インペラ基本周波数とケーシング固有振動数の共振トラブル

発表会社：昭和風力機械株式会社

テーマ③：静圧型非接触式メカニカルシールHSシールの紹介

発表会社：株式会社タンケンシールセーコウ

テーマ④：シャフト軸受け部異常摩耗

発表会社：株式会社武藤電機

11月22日 ポンプ国際規格審議会

次の事項について報告及び審議を行った。

- (1) JIS B 8327 (模型によるポンプ性能試験方法) の校正作業
- (2) ISO/TC115 (ポンプ) 規格類の審議及び回答
- (3) AHG01会議
- (4) 性能換算式検討WG

11月28日 プロセス用圧縮機委員会秋季総会

次の事項について報告及び審議を行った。

- (1) 2024年度上期事業報告案及び下期事業計画案
- (2) 第19回講演会
- (3) ISO/TC118 (圧縮機) 審議状況

運搬機械部会**11月8日 コンベヤ技術委員会****仕分コンベヤ(JIS B 8825)JIS改正WG**

次の事項について検討を行った。

- (1) 「仕分コンベヤJIS B 8825」改正素案
- (2) 今後のスケジュール

11月15日 流通設備委員会 建築分科会**(1) 分科会**

次の事項について検討を行った。

- ① ラック式倉庫の仮想床の算定についての技術的助言について
- ② 今後のスケジュール

(2) 見学会

四国ガス株式会社 高知工場 (高知県高知市) を訪問し、LNG設備 (LNG受入設備、LNG貯槽等) を見学した。

11月19日 巻上機委員会 ISO/TC111国内審議委員会 SC1/AHG1専門家会合

次の事項について報告及び検討を行った。

- (1) SC1/AHG1 第2回国際会議の会議資料及び進行
- (2) TC111/AHG1 第1回国際会議への対応

11月20日 コンベヤ技術委員会

次の事項について検討を行った。

- (1) 製品安全ラベルに関するガイドライン
- (2) 大規模倉庫における防火シャッター降下部のコンベヤに関するガイドライン
- (3) 今後のスケジュール

11月22日 流通設備委員会 クレーン分科会

次の事項について検討を行った。

- (1) 自動倉庫用語JIS規格改正
- (2) 今後のスケジュール

11月27日 クレーン企画委員会

次の事項について報告及び検討を行った。

(1) 委員長の交代

委員長：花田 浩康 殿

UBEマシナリー株式会社

産機事業本部 産機営業部

運搬除塵営業グループ

グループリーダー (新任)

(2) 産機工受注統計**(3) クレーンに関する情報交換****(4) 今後のスケジュール**

動力伝導装置部会

11月5日 見学会

ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社長崎テクノロジーセンター(長崎県諫早市)を訪問し、CMOSイメージセンサーの製造工場を見学するとともに、市場動向・生産設備・新技術について意見交換を行った。

11月27日 減速機委員会

次の事項について報告及び検討を行った。

- (1) 減速機業界動向調査
- (2) 来年度調査テーマ

製鉄機械部会

11月22日 見学会

七ツ島バイオマスパワー合同会社(鹿児島県鹿児島市)を訪問し、メガソーラー発電所及びバイオマス発電所を見学するとともに、現場での取り組みや課題について意見交換を行った。

11月27日 幹事会

次の事項について報告及び検討を行った。

- (1) 連続鋳造設備のISO規格開発への対応
- (2) JIMS Dシリーズの引用規格の改廃への対応
- (3) 今年度調査事業

業務用洗濯機部会

11月15日 技術委員会

次の事項について報告及び検討を行った。

- (1) ISO 10472(業務用洗濯機械の安全規定)シリーズに係る今年度の活動内容
- (2) ISO 10472(業務用洗濯機械の安全規定)内容調査の進め方及び役割分担

11月20日 カーボンニュートラル検討会

SII補助金のカテゴリー登録に関するヒアリング及び質疑応答実施内容について報告を行った。

11月20日 定例会

次の事項について報告及び検討を行った。

- (1) 業務用洗濯機の上期集荷台数統計
- (2) 海外合同施設調査派遣者の書面審議結果
- (3) 機関誌「産業機械」12月号 業務用洗濯機特集号
- (4) 副部会長の交代
- (5) 業務用洗濯機業界の大規模災害対策への取り組みに係るヒアリング結果

エンジニアリング部会

11月29日 企画委員会

2024年度下期活動内容(水素検討委員会、講演会、国内外視察調査)について検討を行った。

委員会

環境委員会

11月11日 VOC自主管理WG

2024年度VOC大気排出実績調査の集計結果等について審議を行い、承認された。また、来年度のVOC自主管理の取り組みについて検討を行った。

11月20日 環境活動基本計画フォローアップWG

「2024年度循環型社会形成自主行動計画」定例調査の結果について審議を行い、承認された。

11月28日 環境活動報告書作成WG

2024年度の環境活動報告書について確認を行い、承認された。また、同報告書の表紙案について検討を行った。

関西支部

11月21日 第114回運営幹事会及び関西地区会員との合同会議

(講演及び審議の内容等は本部11月21日の項を参照)

委員会

労務委員会

11月11日 正副委員長会議

2024年度第2回・第3回労務委員会、2025年度労務委員会について検討を行った。

11月28日 委員会及び研修見学会

- (1) 委員会
2024年度第3回労務委員会について検討を行った。
- (2) 見学会
大阪府警本部(大阪府大阪市)を訪問し、通信指令室、交通管制センター等を見学するとともに大阪府警察薬物対策課による講習会を受講した。その後、大阪歴史博物館(大阪府大阪市)を訪問し、常設展示及び特別展示を見学した。

本部

- 2月13日 第50回優秀環境装置表彰 審査委員会
- 2月25日 運営幹事会
- 3月21日 第50回優秀環境装置表彰式
- 3月26日 運営幹事会

部会

ボイラ・原動機部会

- 2月18日 幹事会
- 〃 タンク部会・ボイラ部会合同情報交換会
- 2月20日 女性交流会
- 3月12日 幹事会

鉱山機械部会

- 2月上旬 ポーリング技術委員会
- 2月中旬 部会幹事会
- 3月中旬 骨材機械委員会

化学機械部会

- 2月7日 拡大幹事会
- 2月25日 若手講習会

環境装置部会

- 2月上旬 環境ビジネス委員会 有望ビジネス分科会
- 〃 資源循環交流会 企画WG
- 2月中旬 環境ビジネス委員会 幹事会
- 3月上旬 環境ビジネス委員会 デジタル・AI分科会
- 〃 環境ビジネス委員会 本委員会
- 3月中旬 環境装置部会 幹事会
- 3月14日 環境ビジネス委員会 先端技術調査分科会
- 3月下旬 調査委員会

タンク部会

- 2月12日 部会拡大幹事会

プラスチック機械部会

- 2月下旬 部会総会
- 〃 幹事会

風水力機械部会

- 2月3日 汎用送風機委員会
- 2月4日 メカニカルシール技術分科会
- 2月7日 風水力機械部会拡大幹事会
- 2月13日～16日 送風機技術者連盟海外施設調査
- 2月14日 プロセス用圧縮機委員会、講演会
- 2月18日 汎用ポンプ委員会
- 2月20日 ロータリ・ブロウ委員会
- 2月21日 ポンプ技術者連盟若手幹事会
- 2月26日 ポンプ技術者連盟拡大常任幹事会
- 2月28日 メカニカルシール講習会
- 3月7日 送風機技術者連盟拡大常任幹事会
- 3月14日 排水用水中ポンプシステム委員会
- 3月19日 汎用ポンプ委員会

運搬機械部会

- 2月上旬 部会幹事会
- 〃 流通設備委員会 建築分科会
- 〃 コンベヤ技術委員会 バルク分科会
- 2月中旬 コンベヤ技術委員会
- 〃 巻上機委員会
- 2月下旬 流通設備委員会 クレーン分科会
- 〃 クレーン企画委員会
- 3月中旬 コンベヤ技術委員会
- 3月下旬 流通設備委員会 クレーン分科会
- 〃 流通設備委員会
- 〃 コンベヤ技術委員会 仕分けコンベヤ JIS改正WG

動力伝導装置部会

- 2月中旬 減速機委員会
- 3月下旬 減速機委員会

製鉄機械部会

- 2月中旬 幹事会

業務用洗濯機部会

- 2月12日 技術委員会
- 〃 コインランドリー分科会
- 3月12日 定例部会

エンジニアリング部会

- 2月中旬 部会講演会
- 〃 水素技術検討委員会

委員会

政策委員会

2月19日 委員会

3月19日 委員会

産業機械工業規格等調査委員会

3月 5日 産業機械工業規格等調査委員会

関西支部

部 会

ボイラ・原動機部会

3月13日 定例部会

委員会

政策委員会

2月27日 委員会

3月28日 委員会

労務委員会

3月 7日 委員会

環境装置をお探しの方！

本検索サイトでは、当工業会会員企業が保有する環境装置・技術に関する情報をご提供しています。分野毎に「環境装置メーカーの検索」ができますので、是非ご活用ください。

分野別（大気汚染防止、水質汚濁防止、廃棄物処理等）、また処理物質別に最新の環境装置・技術と、メーカーが検索可能！

- 当該装置のメーカーを確認できます
- 各メーカーのウェブサイト（リンク先）で詳細な装置・技術の情報を確認できます
- 環境装置・技術の概要を紹介しています

環境装置検索



“環境装置検索”で検索！

環境装置検索

<https://www.jsim-kankyo.jp/>

【お問い合わせ先】

一般社団法人 日本産業機械工業会
環境装置部(TEL:03-3434-6820)

風力発電関連機器産業に関する調査研究報告書

頒 価：5,000円(うち、10%消費税額455円)
連絡先：環境装置部(TEL：03-3434-7579)

風力発電機の本体から部品等まで含めた風力発電関連機器産業に関する生産実態等の調査を実施し、各分野における産業規模や市場予測、現状での課題等を分析し、まとめた。

2020年に向けての産業用ボイラ需要動向と今後の展望

頒 価：2,000円(うち、10%消費税額182円)
連絡先：産業機械第1部(TEL：03-3434-3730)

産業用ボイラの需要動向、技術動向及び今後の展望について、5年程度の調査を基にまとめた。

化学機械製作の共通課題に関する調査研究報告書(第8版 平成20年度版) ～化学機械分野における輸出管理手続き～

頒 価：1,000円(うち、10%消費税額91円)
連絡先：産業機械第1部(TEL：03-3434-3730)

化学機械製作に関する共通の課題・問題点を抽出し、取りまとめたもの。今回は強化されつつある輸出管理について、化学機械分野に限定して申請手続きの流れや実際の手続きの例を示した。実際に手続きに携わる方への参考書となる一冊。

2023(令和5)年度 環境装置の生産実績

頒 価：4,000円(うち、10%消費税額363円)
連絡先：環境装置部(TEL：03-3434-6820、MAIL：kankyo-reply@jsim.or.jp)

日本の環境装置の生産額を装置別、需要部門別(輸出入含む)、企業規模別、研究開発費等で集計し図表化した。その他、前年度との比較や1980年代以降の生産実績の推移を掲載している。

プラスチック機械産業の市場動向調査報告書(2024年2月発行版)

頒 価：1,000円(うち、10%消費税額91円)
連絡先：本部(東京)産業機械第2部(TEL：03-3434-6826)

射出成形機、押出成形機、ブロー成形機に関する2023～2025年の市場動向を取りまとめたもの。

JIMS H 3002業務用洗濯機械の性能に係る試験方法(平成20年8月制定)

頒 価：1,000円(うち、10%消費税額91円)
連絡先：産業機械第1部(TEL：03-3434-3730)

風水力機械産業の現状と将来展望 —2021年～2025年—

頒 価：会 員/1,500円(うち、10%消費税額137円)
会 員外/3,000円(うち、10%消費税額273円)
連絡先：産業機械第1部(TEL：03-3434-3730)

1980年より約5年に1度、風水力機械部会より発行している報告書の最新版。風水力機械産業の代表的な機種であるポンプ、送風機、汎用圧縮機、プロセス用圧縮機、メカニカルシールの機種ごとに需要動向と予測、技術動向、国際化を含めた今後の課題と対応についてまとめた。風水力機械メーカーはもとより官公庁、エンジニアリング会社、ユーザ会社等の方々にも有益な内容である。

メカニカル・シールハンドブック 初・中級編(改訂第3版)

頒 価：2,000円(うち、10%消費税額182円)
連絡先：産業機械第1部(TEL：03-3434-3730)

メカニカルシールに関する用語、分類、基本特性、寸法、材料選定等についてまとめたもの(2010年10月発行)。

ユニット式ラック構造設計基準 (JIMS J-1001：2012)解説書

頒 価：800円(うち、10%消費税額73円)
連絡先：産業機械第2部(TEL：03-3434-6826)

ユニット式ラックの構造設計を行う場合の地震動に対する考え方をより理解してもらうため、JIMS J-1001：2012を解説・補足する位置付けとして、JIMS J-1001：2012と併せた活用を前提にまとめた。

物流システム機器ハンドブック

頒 価：3,990円(うち、10%消費税額363円)
連絡先：産業機械第2部(TEL：03-3434-6826)

- (1) 各システム機器の分類、用語の統一
- (2) 能力表示方法の統一、標準化
- (3) 各機器の安全基準と関連法規・規格
- (4) 取扱説明書、安全マニュアル
- (5) 物流施設の計画における寸法算出基準

ゴムベルトコンベヤの計算式 (JIS B 8805-1992)計算マニュアル

頒 価：1,000円(うち、10%消費税額91円)
連絡先：産業機械第2部(TEL：03-3434-6826)

現行JIS(JIS B 8805-1992)は、ISO5048に準拠して改正されたが、旧JIS(JIS B 8805-1976)とは計算手順が異なるため、これをマニュアル化したもの。

コンベヤ機器保守・点検業務に関するガイドライン

頒 価：1,000円(うち、10%消費税額91円)
連絡先：産業機械第2部(TEL：03-3434-6826)

コンベヤ機器の使用における事業者の最小限の保守・点検レベルを確保するため、ガイドラインとしてまとめたもの。

チェーン・ローラ・ベルトコンベヤ、仕分コンベヤ、垂直コンベヤ、およびパレタイザ検査要領書(第2版)

頒 価：500円(うち、10%消費税額46円)
連絡先：産業機械第2部(TEL：03-3434-6826)

ばら物コンベヤを除くコンベヤ機器について、検査要領の客観的な指針を、設備納入メーカーや購入者のガイドラインとしてまとめたもの(2022年6月発行)。

バルク運搬用 ベルトコンベヤ設備保守・点検業務に関するガイドライン

頒 価：500円(うち、10%消費税額46円)
連絡先：産業機械第2部(TEL：03-3434-6826)

コンベヤ機器の使用における事業者の最小限の保守・点検レベルを確保するため、ガイドラインとしてまとめたもの。

バルク運搬用 ベルトコンベヤ検査基準

頒 価：1,000円(うち、10%消費税額91円)
連絡先：産業機械第2部(TEL：03-3434-6826)

バルク運搬用ベルトコンベヤの製作、設置に関する部品並びに設備の機能を満足するための検査項目、検査箇所及び検査要領とその判定基準について規定したもの。

ユニバーサルデザインを活かしたエレベータのガイドライン

頒 価：1,000円(うち、10%消費税額91円)
連絡先：産業機械第2部(TEL：03-3434-6826)

ユニバーサルデザインの理念に基づいた具体的な方法をガイドラインとして提案したもの。

東京直下地震のエレベータ被害予測に関する研究

頒 価：1,000円(うち、10%消費税額91円)
連絡先：産業機械第2部(TEL：03-3434-6826)

東京湾北部を震源としたマグニチュード7程度の地震が予測されていることから、所有者、利用者にエレベータの被害状況を提示し、対策の一助になることを目的として、エレベータの閉じ込め被害状況の推定を行ったもの。

ラック式倉庫のスプリンクラー設備の解説書

頒 価：1,000円(うち、10%消費税額91円)
連絡先：産業機械第2部(TEL：03-3434-6826)

1998年7月の消防法令の改正に伴い、「ラック式倉庫」の技術基準、ガイドラインについて、分かりやすく解説したもの。

2023年度版 エコスラグ有効利用の現状とデータ集

頒 価：5,000円(うち、10%消費税額455円)
連絡先：エコスラグ利用普及推進室(TEL：03-3434-7579)

全国におけるエコスラグの生産状況、利用状況、分析データ等をアンケート調査からまとめた。また、委員会の活動についても報告している(2024年5月発行)。

道路用溶融スラグ品質管理及び設計施工マニュアル(改訂版)

頒 価：3,000円(うち、10%消費税額273円)
連絡先：エコスラグ利用普及推進室(TEL：03-3434-7579)

2016年10月20日に改正されたJIS A 5032「一般廃棄物、下水汚泥又はそれらの焼却灰を溶融固化した道路用溶融スラグ」について、溶融スラグの製造者、及び道路の設計施工者向けに関連したデータを加えて解説した(2017年3月発行)。

港湾工事前エコスラグ利用手引書

頒 価：実費頒布
連絡先：エコスラグ利用普及推進室(TEL：03-3434-7579)

エコスラグを港湾工事前材料として有効利用するために、設計・施工に必要なエコスラグの物理的・化学的特性をまとめた。工法としては、サンドコンパクションパイル工法とバーチカルドレーン工法を対象としている(2006年10月発行)。

2024年度 環境活動報告書

頒 価：無償頒布
連絡先：企画調査部(TEL：03-3434-6823)

環境委員会が会員企業を対象に実施する各種環境関連調査の結果報告の他、会員企業の環境保全への取り組み等を紹介している(今年度より紙での発行は終了しました)。

<https://www.jsim.or.jp/pdf/publication/a-1-55-00-00-20241220.pdf>



産業機械受注状況(2024年10月)

企画調査部

1. 概要

10月の受注高は3,632億1,100万円、前年同月比17.2%増となった。

内需は、2,565億4,400万円、前年同月比10.1%増となった。

内需のうち、製造業向けは前年同月比7.7%増、非製造業向けは同3.1%増、官公需向けは同25.2%増、代理店向けは同11.7%増であった。

増加した機種は、ボイラ・原動機(17.9%増)、鉱山機械(25.9%増)、化学機械(1.5%増)、タンク(262.3%増)、ポンプ(4.6%増)、圧縮機(28.2%増)、変速機(34.7%増)、金属加工機械(35.2%増)、その他機械(34.7%増)の9機種であり、減少した機種は、プラスチック加工機械(▲26.7%減)、送風機(▲1.3%減)、運搬機械(▲13.2%減)の3機種であった(括弧の数字は前年同月比)。

外需は、1,066億6,700万円、前年同月比38.8%増となった。

プラントは3件、45億8,900万円となった(前年同月に案件がなかったため比率を計上できず)。

増加した機種は、ボイラ・原動機(43.1%増)、化学機械(30.0%増)、ポンプ(61.9%増)、圧縮機(14.0%増)、送風機(47.7%増)、変速機(15.3%増)、金属加工機械(365.3%増)、その他機械(284.9%増)の8機種であり、減少した機種は、鉱山機械(▲63.6%減)、タンク(▲97.2%減)、プラスチック加工機械(▲9.5%減)、運搬機械(▲25.2%減)の4機種であった(括弧の数字は前年同月比)。

2. 機種別の動向

- ① ボイラ・原動機
石油石炭、非鉄金属、業務用機械、電力、官公需、外需の増加により前年同月比23.8%増となった。
- ② 鉱山機械
建設の増加により同18.8%増となった。
- ③ 化学機械(冷凍機械を含む)
食品、外需の増加により同6.4%増となった。
- ④ タンク
石油・石炭、その他非製造業の増加により同150.4%増となった。
- ⑤ プラスチック加工機械
その他製造業、外需の減少により同▲17.7%減となった。
- ⑥ ポンプ
外需、代理店の増加により同16.2%増となった。
- ⑦ 圧縮機
鉄鋼、電力、外需の増加により同20.7%増となった。
- ⑧ 送風機
電力が減少したものの、鉄鋼、官公需、外需の増加により同0.7%増となった。
- ⑨ 運搬機械
電気機械、自動車、卸売・小売、外需の減少により同▲16.8%減となった。
- ⑩ 変速機
化学、自動車、その他製造業、官公需、外需の増加により同32.4%増となった。
- ⑪ 金属加工機械
鉄鋼、外需の増加により同116.8%増となった。

(表3) 2024年10月 需要部門別機種別受注額

(一般社団法人日本産業機械工業会調)
金額単位：百万円

※2011年4月より需要者分類を改訂しました。

需要者別		機種別	ボイラ・原動機	鉱山機械	化学機械	冷凍機械	タンク	プラスチック加工機械	ポンプ	圧縮機	送風機	運搬機械	変速機	金属加工機械	その他	合計	
民間需要	食品工業		834	0	3,716	465	0	0	43	88	4	1,503	180	1	77	6,911	
	繊維工業		49	0	55	198	0	38	13	0	0	251	32	2	65	703	
	紙・パルプ工業		1,447	0	40	150	0	1	46	13	1	48	76	0	30	1,852	
	化学工業		963	0	2,287	644	0	633	1,109	710	36	684	316	17	394	7,793	
	石油・石炭製品工業		4,233	0	1,258	599	1,165	3	230	443	7	59	35	0	79	8,111	
	窯業土石		151	884	807	151	0	0	8	23	14	30	149	89	14	2,320	
	鉄鋼業		359	67	860	307	0	3	634	2,787	180	1,022	392	2,217	142	8,970	
	非鉄金属		3,800	0	825	303	0	0	48	85	1	763	17	141	8	5,991	
	金属製品		33	0	73	199	0	0	1	44	1	192	89	380	48	1,060	
	はん用・生産用機械		1	0	467	4,084	0	4	141	3,742	49	1,872	288	375	92	11,115	
	業務用機械		1,448	0	26	1,198	0	68	5	10	0	18	59	0	177	3,009	
	電気機械	▲	541	0	440	2,995	0	134	21	216	5	118	55	74	10	3,527	
	情報通信機械		290	0	1,310	23	0	40	135	34	0	398	89	18	2,094	4,431	
	自動車工業		46	0	1,335	1,050	0	2,520	51	1	187	1,991	399	372	18	7,970	
	造船業		582	0	522	74	0	0	213	214	6	1,833	133	10	177	3,764	
	その他輸送機械工業	▲	11	0	4	0	0	1	13	1	0	17	248	46	0	319	
	その他製造業		493	87	993	5	0	1,245	896	297	73	685	1,676	273	1,844	8,567	
	製造業計		14,177	1,038	15,018	12,445	1,165	4,690	3,607	8,708	564	11,484	4,233	4,015	5,269	86,413	
	非製造業	農林漁業		7	0	48	200	0	0	3	3	9	18	23	3	14	328
		鉱業・採石業・砂利採取業		0	375	123	0	0	0	0	10	0	12	15	2	8	545
建設業			70	1,441	103	488	0	0	97	700	1	815	201	312	44	4,272	
電力業			39,886	0	1,576	17	31	0	761	1,912	20	83	163	0	2,536	46,985	
運輸業・郵便業			79	0	269	175	0	0	4	8	78	3,181	213	0	26	4,033	
通信業			279	0	0	108	0	0	0	0	0	14	26	0	0	427	
卸売業・小売業			22	0	160	1,022	0	0	103	198	46	1,475	104	51	0	3,181	
金融業・保険業			261	0	0	150	0	0	0	0	0	1	0	0	0	412	
不動産業			34	0	0	0	0	0	6	0	1	0	18	0	0	59	
情報サービス業			114	0	2	150	0	0	0	0	14	42	9	0	0	331	
リース業			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他非製造業		2,995	5	762	1,098	528	3	3,097	114	138	1,202	103	12	6,554	16,611		
非製造業計		43,747	1,821	3,043	3,408	559	3	4,071	2,945	307	6,843	875	380	9,182	77,184		
民間需要合計		57,924	2,859	18,061	15,853	1,724	4,693	7,678	11,653	871	18,327	5,108	4,395	14,451	163,597		
官公需	運輸業		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	0	0	32	
	防衛省		2,567	0	3	153	0	0	39	63	0	0	0	0	222	3,047	
	国家公務		2,423	0	0	0	0	0	432	6	397	123	0	3	110	3,494	
	地方公務		587	0	15,743	300	15	0	7,040	66	78	230	24	0	13,231	37,314	
	その他官公需		6,234	0	1,196	306	0	0	2,038	83	33	90	671	1	76	10,728	
	官公需計		11,812	0	16,942	759	15	0	9,549	218	508	443	726	4	13,639	54,615	
海外需要		25,781	72	11,220	7,224	6	6,767	11,588	15,590	127	7,703	692	5,155	14,742	106,667		
代理店		451	17	151	17,294	0	267	12,320	4,143	642	2,033	273	164	577	38,332		
受注額合計		95,968	2,948	46,374	41,130	1,745	11,727	41,135	31,604	2,148	28,506	6,799	9,718	43,409	363,211		

産業機械輸出契約状況(2024年10月)

企画調査部

1. 概要

10月の主要約70社の輸出契約高は、939億2,800万円、前年同月比38.2%増となった。

プラントは3件、45億8,900万円となった(前年同月に案件がなかったため比率を計上できず)。

単体は893億3,900万円、前年同月比31.4%増となった。

地域別構成比は、アジア53.4%、北アメリカ19.5%、中東16.7%、ヨーロッパ5.9%、南アメリカ2.0%となっている。

2. 機種別の動向

(1) 単体機械

① ボイラ・原動機

北アメリカの増加により、前年同月比41.7%増となった。

② 鉱山機械

アジア、ヨーロッパの減少により、前年同月比▲62.4%減となった。

③ 化学機械

アジア、北アメリカの増加により、前年同月比16.3%増となった。

④ プラスチック加工機械

アジア、中東、ヨーロッパ、北アメリカ、アフリカの減少により、前年同月比▲29.3%減となった。

⑤ 風水力機械

アジア、中東の増加により、前年同月比37.0%増となった。

⑥ 運搬機械

アジア、北アメリカの減少により、前年同月比▲63.0%減となった。

⑦ 変速機

アジアの増加により、前年同月比19.2%増となった。

⑧ 金属加工機械

アジア、ヨーロッパの増加により、前年同月比202.0%増となった。

⑨ 冷凍機械

アジア、ヨーロッパの増加により、前年同月比29.6%増となった。

(2) プラント

アジア、中東、南アメリカが増加した(前年同月に案件がなかったため比率を計上できず)。

(表1) 産業機械輸出契約状況 機種別受注状況

(一般社団法人日本産業機械工業会調)
金額単位：百万円 増減比：%

	単体機械															
	①ボイラ・原動機		②鉱山機械		③化学機械		④プラスチック加工機械		⑤風水力機械		⑥運搬機械		⑦変速機		⑧金属加工機械	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
2021年度	351,544	46.8	2,139	226.6	83,300	▲65.6	239,576	99.7	219,040	28.0	143,841	61.9	9,398	45.3	70,011	229.4
2022年度	446,745	27.1	1,592	▲25.6	237,511	185.1	271,033	13.1	247,730	13.1	137,590	▲4.3	8,912	▲5.2	40,112	▲42.7
2023年度	466,488	4.4	2,027	27.3	112,809	▲52.5	177,343	▲34.6	203,564	▲17.8	87,800	▲36.2	7,127	▲20.0	67,410	68.1
2021年	261,752	▲27.8	2,039	119.0	89,576	▲71.9	219,509	102.8	217,611	30.7	137,859	41.8	9,342	70.2	56,179	138.5
2022年	435,592	66.4	1,327	▲34.9	192,923	115.4	272,101	24.0	239,592	10.1	156,330	13.4	9,418	0.8	44,968	▲20.0
2023年	535,199	22.9	2,546	91.9	140,330	▲27.3	185,904	▲31.7	204,019	▲14.8	85,709	▲45.2	7,344	▲22.0	64,892	44.3
2023年7~9月	103,137	17.1	431	29.8	25,828	3.2	51,767	▲29.3	51,383	▲18.7	16,286	▲49.9	1,926	▲8.8	27,990	318.6
10~12月	154,034	57.9	876	259.0	26,582	▲66.8	27,384	▲51.5	45,862	▲30.0	28,163	▲37.4	1,693	▲28.0	5,022	▲14.0
2024年1~3月	113,749	▲37.7	76	▲87.2	40,265	▲40.6	46,016	▲15.7	57,266	▲0.8	17,663	13.4	1,684	▲11.4	18,789	15.5
4~6月	119,801	25.4	563	▲12.6	112,968	461.1	29,644	▲43.2	46,456	▲5.3	16,260	▲36.7	1,971	8.1	7,331	▲53.0
7~9月	131,100	27.1	387	▲10.2	113,864	340.9	42,751	▲17.4	54,068	5.2	7,089	▲56.5	2,099	9.0	5,956	▲78.7
2024.4~10累計	275,743	27.5	1,020	▲19.1	235,195	342.5	76,986	▲30.3	123,852	5.4	26,527	▲47.5	4,691	9.8	16,271	▲63.5
2024.1~10累計	389,492	▲2.3	1,096	▲40.9	275,460	127.8	123,002	▲25.5	181,118	3.4	44,190	▲33.2	6,375	3.3	35,060	▲42.4
2024年5月	34,130	▲2.1	116	▲63.8	3,850	▲31.3	9,582	▲46.4	16,942	34.6	3,152	0.8	628	▲7.2	1,792	▲30.8
6月	27,538	▲42.1	158	58.0	101,986	765.8	8,306	▲46.3	13,418	▲40.7	6,717	▲27.6	694	15.5	1,615	▲72.8
7月	56,145	245.0	305	13.8	5,501	7.4	15,198	1.8	18,799	98.6	2,788	34.6	697	21.0	556	▲75.9
8月	15,189	24.1	51	▲65.3	6,006	▲33.0	15,001	12.2	18,187	▲27.9	2,542	▲39.1	686	46.0	701	▲84.8
9月	59,766	▲19.9	31	93.8	102,357	771.4	12,552	▲46.5	17,082	2.3	1,759	▲82.5	716	▲18.6	4,699	▲77.7
10月	24,842	41.7	70	▲62.4	8,363	16.3	4,591	▲29.3	23,328	37.0	3,178	▲63.0	621	19.2	2,984	202.0

	単体機械						⑫プラント		⑬総計	
	⑨冷凍機械		⑩その他		⑪単体合計		金額	前年比	金額	前年比
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比				
2021年度	96,363	52.8	209,315	98.0	1,424,527	34.6	64,862	▲ 91.8	1,489,389	▲ 19.3
2022年度	139,391	44.7	150,237	▲ 28.2	1,680,853	18.0	35,630	▲ 45.1	1,716,483	15.2
2023年度	89,499	▲ 35.8	159,135	5.9	1,373,202	▲ 18.3	125,995	253.6	1,499,197	▲ 12.7
2021年	87,485	47.8	205,285	79.1	1,286,637	2.4	831,835	2782.9	2,118,472	64.8
2022年	137,076	56.7	176,373	▲ 14.1	1,665,700	29.5	42,900	▲ 94.8	1,708,600	▲ 19.3
2023年	101,996	▲ 25.6	145,703	▲ 17.4	1,473,642	▲ 11.5	75,132	75.1	1,548,774	▲ 9.4
2023年7~9月	22,605	▲ 39.1	41,154	0.6	342,507	▲ 7.2	30,116	38.5	372,623	▲ 4.7
10~12月	18,213	▲ 50.1	35,816	▲ 22.7	343,645	▲ 21.1	26,230	139.7	369,875	▲ 17.2
2024年1~3月	17,813	▲ 41.2	26,285	104.5	339,606	▲ 22.8	50,863	-	390,469	▲ 11.3
4~6月	19,450	▲ 37.0	38,938	▲ 30.3	393,382	13.2	16,559	▲ 11.9	409,941	11.9
7~9月	27,023	19.5	40,053	▲ 2.7	424,390	23.9	42,741	41.9	467,131	25.4
2024.4~10累計	53,697	▲ 9.1	93,129	▲ 7.7	907,111	19.7	63,889	30.6	971,000	20.3
2024.1~10累計	71,510	▲ 20.0	119,414	5.0	1,246,717	4.1	114,752	134.7	1,361,469	9.2
2024年5月	6,092	▲ 42.3	8,532	▲ 82.7	84,816	▲ 38.4	6,094	6.8	90,910	▲ 36.6
6月	8,452	▲ 9.6	10,867	183.2	179,751	42.1	10,465	▲ 20.0	190,216	36.2
7月	8,096	▲ 4.1	7,406	4.1	115,491	73.5	10,701	▲ 37.6	126,192	50.8
8月	8,284	15.3	13,924	▲ 28.2	80,571	▲ 15.9	11,720	182.1	92,291	▲ 7.6
9月	10,643	52.5	18,723	27.9	228,328	26.7	20,320	130.4	248,648	31.6
10月	7,224	29.6	14,138	265.1	89,339	31.4	4,589	-	93,928	38.2

(備考) ※10月のプラントの内訳
(金額) (件数) (金額)

1. 化学・石化	1	1,800
2. その他	2	2,789
合計	3	4,589

(金額) (構成比)

国内	1,517	33.1%
海外	1,138	24.8%
その他	1,934	42.1%
合計	4,589	100.0%

(表2) 産業機械輸出契約状況 機種別・世界州別受注状況

(一般社団法人日本産業機械工業会調)
金額単位：百万円 増減比：%

(単体機械)	①ボイラ・原動機			②鉱山機械			③化学機械			④プラスチック加工機械			⑤風水力機械		
	件数	金額	前年同月比	件数	金額	前年同月比	件数	金額	前年同月比	件数	金額	前年同月比	件数	金額	前年同月比
アジア	29	7,011	▲ 32.7	13	26	▲ 78.7	93	5,062	37.9	43	3,613	▲ 14.7	1,551	11,834	83.8
中東	13	1,890	629.7	1	31	-	4	1,282	▲ 41.6	2	67	▲ 66.0	241	10,193	579.1
ヨーロッパ	3	1,427	▲ 11.6	0	0	▲ 100.0	11	180	▲ 79.7	12	205	▲ 51.7	373	184	▲ 93.9
北アメリカ	15	13,640	180.1	0	0	-	16	1,394	276.8	15	369	▲ 46.4	1,085	831	▲ 28.4
南アメリカ	1	23	146.9	0	0	-	1	28	▲ 6.7	3	286	16.7	16	45	▲ 85.7
アフリカ	0	0	▲ 100.0	6	5	▲ 28.6	1	404	-	3	35	▲ 90.4	10	28	▲ 97.7
オセアニア	1	303	450.9	7	8	-	0	0	▲ 100.0	1	4	▲ 95.2	22	150	▲ 96.0
ロシア・東欧	3	548	70.2	0	0	-	3	13	▲ 61.8	4	12	▲ 95.2	10	63	115.3
合計	65	24,842	41.7	27	70	▲ 62.4	129	8,363	16.3	83	4,591	▲ 29.3	3,308	23,328	37.0

(単体機械)	⑥運搬機械			⑦変速機			⑧金属加工機械			⑨冷凍機械			⑩その他		
	件数	金額	前年同月比	件数	金額	前年同月比	件数	金額	前年同月比	件数	金額	前年同月比	件数	金額	前年同月比
アジア	30	2,447	▲ 29.1	580	298	53.6	55	2,390	146.6	21	3,341	37.8	767	12,701	333.5
中東	1	58	-	1	▲ 14	-	1	38	-	2	302	22.3	8	4	100.0
ヨーロッパ	1	132	277.1	21	143	28.8	4	420	1809.1	12	2,365	17.9	208	445	▲ 49.0
北アメリカ	4	342	▲ 93.3	21	158	▲ 10.7	16	72	754.5	2	500	65.0	351	974	1972.3
南アメリカ	1	4	100.0	4	30	3.4	6	17	112.5	1	79	9.7	0	0	▲ 100.0
アフリカ	1	1	▲ 80.0	0	0	-	1	47	-	1	124	21.6	0	0	▲ 100.0
オセアニア	5	180	3700.0	2	5	▲ 50.0	0	0	-	1	513	21.9	1	13	-
ロシア・東欧	1	14	600.0	1	1	-	0	0	-	0	0	-	1	1	-
合計	44	3,178	▲ 63.0	630	621	19.2	83	2,984	202.0	40	7,224	29.6	1,336	14,138	265.1

	⑪単体合計			⑫プラント			⑬総計			
	件数	金額	前年同月比	件数	金額	前年同月比	件数	金額	前年同月比	構成比
アジア	3,182	48,723	39.8	1	1,466	-	3,183	50,189	44.0	53.4%
中東	274	13,851	214.7	1	1,800	-	275	15,651	255.6	16.7%
ヨーロッパ	645	5,501	▲ 39.2	0	0	-	645	5,501	▲ 39.2	5.9%
北アメリカ	1,525	18,280	44.0	0	0	-	1,525	18,280	44.0	19.5%
南アメリカ	33	512	▲ 21.8	1	1,323	-	34	1,835	180.2	2.0%
アフリカ	23	644	▲ 63.5	0	0	-	23	644	▲ 63.5	0.7%
オセアニア	40	1,176	▲ 73.0	0	0	-	40	1,176	▲ 73.0	1.3%
ロシア・東欧	23	652	231.0	0	0	-	23	652	231.0	0.7%
合計	5,745	89,339	31.4	3	4,589	-	5,748	93,928	38.2	100.0%

環境装置受注状況(2024年10月)

企画調査部

10月の受注高は、393億6,500万円で、前年同月比9.9%増となった。

1. 需要部門別の動向(前年同月との比較)

- ① 製造業
鉄鋼向け産業廃水処理装置の減少により、▲49.7%減となった。
- ② 非製造業
その他向け都市ごみ処理装置、事業系廃棄物処理装置の増加により、25.3%増となった。
- ③ 官公需
都市ごみ処理装置、ごみ処理装置関連機器の増加により、20.5%増となった。
- ④ 外需
排煙脱硫装置、事業系廃棄物処理装置の減少により、▲20.0%減となった。

2. 装置別の動向(前年同月との比較)

- ① 大気汚染防止装置
海外向け排煙脱硫装置、電力向け排煙脱硝装置の減少により、▲18.7%減となった。
- ② 水質汚濁防止装置
鉄鋼向け産業廃水処理装置、官公需向け汚泥処理装置の減少により、▲11.1%減となった。
- ③ ごみ処理装置
その他非製造業向け都市ごみ処理装置、事業系廃棄物処理装置、官公需向け都市ごみ処理装置、関連機器の増加により、49.5%増となった。
- ④ 騒音振動防止装置
その他製造業向け騒音防止装置の増加により、1132.1%増となった。

(表1) 環境装置の需要部門別受注状況

(一般社団法人日本産業機械工業会調)
金額単位：百万円 増減比：%

	①製造業		②非製造業		③民需計		④官公需		⑤内需計		⑥外需		⑦合計	
	(金額)	(前年比)	(金額)	(前年比)	(金額)	(前年比)	(金額)	(前年比)	(金額)	(前年比)	(金額)	(前年比)	(金額)	(前年比)
2021年度	48,236	88.2	65,479	▲ 1.0	113,715	23.9	503,767	4.5	617,482	7.6	32,086	▲ 1.2	649,568	7.1
2022年度	47,709	▲ 1.1	65,054	▲ 0.6	112,763	▲ 0.8	580,494	15.2	693,257	12.3	26,894	▲ 16.2	720,151	10.9
2023年度	68,241	43.0	52,319	▲ 19.6	120,560	6.9	544,852	▲ 6.1	665,412	▲ 4.0	48,656	80.9	714,068	▲ 0.8
2021年	40,895	52.3	55,778	▲ 17.3	96,673	2.5	514,263	▲ 4.3	610,936	▲ 3.3	31,182	▲ 0.6	642,118	▲ 3.1
2022年	52,829	29.2	68,655	23.1	121,484	25.7	479,407	▲ 6.8	600,891	▲ 1.6	10,771	▲ 65.5	611,662	▲ 4.7
2023年	62,729	18.7	66,670	▲ 2.9	129,399	6.5	575,139	20.0	704,538	17.2	65,497	508.1	770,035	25.9
2023年7~9月	14,399	23.0	14,946	30.4	29,345	26.6	146,321	2.4	175,666	5.7	5,362	128.6	181,028	7.4
10~12月	22,409	75.4	16,704	▲ 8.7	39,113	25.9	140,329	5.8	179,442	9.6	2,516	66.2	181,958	10.1
2024年1~3月	16,094	52.1	7,368	▲ 66.1	23,462	▲ 27.4	149,030	▲ 16.9	172,492	▲ 18.5	2,955	▲ 85.1	175,447	▲ 24.2
4~6月	14,883	▲ 3.0	18,397	38.3	33,280	16.2	170,764	56.4	204,044	48.1	22,415	▲ 40.7	226,459	28.9
7~9月	8,151	▲ 43.4	14,636	▲ 2.1	22,787	▲ 22.3	117,522	▲ 19.7	140,309	▲ 20.1	2,701	▲ 49.6	143,010	▲ 21.0
2024.4~10累計	25,676	▲ 26.6	38,477	18.1	64,153	▲ 5.1	318,970	13.5	383,123	9.9	25,711	▲ 41.5	408,834	4.2
2024.1~10累計	41,770	▲ 8.3	45,845	▲ 15.6	87,615	▲ 12.3	468,000	1.7	555,615	▲ 0.8	28,666	▲ 55.0	584,281	▲ 6.3
2024年8月	1,399	▲ 57.7	5,517	55.1	6,916	0.7	28,299	▲ 51.4	35,215	▲ 45.9	742	▲ 75.0	35,957	▲ 47.2
9月	3,711	▲ 55.3	4,964	9.5	8,675	▲ 32.4	71,165	45.8	79,840	29.5	1,503	56.1	81,343	29.9
10月	2,642	▲ 49.7	5,444	25.3	8,086	▲ 15.8	30,684	20.5	38,770	10.6	595	▲ 20.0	39,365	9.9

(表2) 環境装置の装置別受注状況

(一般社団法人日本産業機械工業会調)
金額単位：百万円 増減比：%

	①大気汚染防止装置		②水質汚濁防止装置		③ごみ処理装置		④騒音振動防止装置		⑤合計	
	(金額)	(前年比)	(金額)	(前年比)	(金額)	(前年比)	(金額)	(前年比)	(金額)	(前年比)
2021年度	22,877	▲ 51.8	197,074	12.3	428,043	12.1	1,574	0.5	649,568	7.1
2022年度	25,661	12.2	211,848	7.5	479,899	12.1	2,743	74.3	720,151	10.9
2023年度	24,733	▲ 3.6	259,158	22.3	428,736	▲ 10.7	1,441	▲ 47.5	714,068	▲ 0.8
2021年	24,120	▲ 45.8	208,564	20.0	408,181	▲ 7.9	1,253	▲ 17.1	642,118	▲ 3.1
2022年	25,692	6.5	193,730	▲ 7.1	389,413	▲ 4.6	2,827	125.6	611,662	▲ 4.7
2023年	25,404	▲ 1.1	255,889	32.1	486,778	25.0	1,964	▲ 30.5	770,035	25.9
2023年7~9月	6,826	13.7	66,062	79.6	107,860	▲ 13.9	280	▲ 39.9	181,028	7.4
10~12月	6,440	▲ 11.9	76,037	12.7	99,376	10.7	105	▲ 82.5	181,958	10.1
2024年1~3月	6,707	▲ 9.1	61,619	5.6	107,008	▲ 35.2	113	▲ 82.2	175,447	▲ 24.2
4~6月	6,790	42.6	48,333	▲ 12.8	171,243	49.6	93	▲ 90.1	226,459	28.9
7~9月	7,687	12.6	59,719	▲ 9.6	75,558	▲ 29.9	46	▲ 83.6	143,010	▲ 21.0
2024.4~10累計	15,858	19.4	127,598	▲ 11.1	264,894	13.0	484	▲ 61.3	408,834	4.2
2024.1~10累計	22,565	9.2	189,217	▲ 6.3	371,902	▲ 6.9	597	▲ 68.4	584,281	▲ 6.3
2024年8月	2,897	85.7	17,286	▲ 23.5	15,768	▲ 64.1	6	▲ 72.7	35,957	▲ 47.2
9月	2,442	74.2	32,510	24.5	46,377	32.4	14	▲ 80.0	81,343	29.9
10月	1,381	▲ 18.7	19,546	▲ 11.1	18,093	49.5	345	1132.1	39,365	9.9

(表3) 2024年10月 環境装置需要部門別受注額

(一般社団法人日本産業機械工業会調)
金額単位：百万円

需要部門 機種	民間需要																官公需要			外需	合計		
	製造業												非製造業				計	地方 自治体	その他			小計	
	食品	繊維	パルプ・紙	石油 石炭	石油 化学	化学	窯業	鉄鋼	非鉄 金属	機械	その他	小計	電力	鉱業	その他	小計							
集じん装置	4	2	9	3	3	22	65	337	107	104	31	687	105	73	143	321	1,008	5	0	5	15	1,028	
重・軽油 脱硫装置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
排煙脱硫装置	0	0	0	0	0	6	1	12	0	0	0	19	117	0	4	121	140	0	0	0	13	153	
排煙脱硝装置	0	0	0	5	2	0	0	0	0	23	0	30	8	0	0	8	38	27	0	27	63	128	
排ガス処理装置	0	0	7	0	0	0	0	0	1	0	54	62	0	0	0	0	62	1	0	1	0	63	
関連機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3	6	0	6	0	9	
小計	4	2	16	8	5	28	66	349	108	127	88	801	230	73	147	450	1,251	39	0	39	91	1,381	
産業廃 水処理 装置	478	0	2	19	0	133	0	4	2	530	111	1,279	3	45	100	148	1,427	123	0	123	162	1,712	
下水汚 濁処理 装置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,538	1,001	9,539	0	9,539	
し尿処理装置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
汚泥処理装置	6	0	0	0	0	0	0	1	1	43	10	61	0	0	0	0	61	7,509	176	7,685	0	7,746	
海洋汚 染防止 装置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関連機器	47	0	0	0	0	0	0	0	0	3	37	87	0	3	15	18	105	125	0	125	319	549	
小計	531	0	2	19	0	133	0	5	3	576	158	1,427	3	48	115	166	1,593	16,295	1,177	17,472	481	19,546	
都市ご み処理 装置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,392	2,392	2,392	11,276	0	11,276	0	13,668	
事業系 廃棄物 処理装置	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	38	0	0	2,312	2,312	2,350	11	0	11	23	2,384	
関連機器	0	0	26	0	1	0	0	0	0	4	0	31	1	0	123	124	155	1,886	0	1,886	0	2,041	
小計	22	0	26	0	1	0	0	0	0	4	16	69	1	0	4,827	4,828	4,897	13,173	0	13,173	23	18,093	
騒音防止装置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	345	345	0	0	0	0	345	0	0	0	0	345	
振動防止装置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関連機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	345	345	0	0	0	0	345	0	0	0	0	345	
合計	557	2	44	27	6	161	66	354	111	707	607	2,642	234	121	5,089	5,444	8,086	29,507	1,177	30,684	595	39,365	

送信先

一般社団法人日本産業機械工業会
総務部 編集広報課 行
FAX : 03-3434-4767
E-Mail : kaishi@jsim.or.jp

発信元

貴社名 :
所属・役職 :
氏名 :
TEL :
FAX :

「産業機械」をご購読いただき、誠にありがとうございます。定期購読の希望、送付先の変更・追加等がございましたら、下記にご記入の上、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1 「産業機械」定期購読申し込みについて

新たに定期購読を希望される方は、下記に送付先をご記入の上、ご返信ください。受け取り次第、請求書を送付いたします(購読料は前納制です。お支払は振込にてお願い申し上げます)。

購読料 定価 1部 : 770円(税込) 年間購読料 : 9,240円(税込)

▶ 年 月号から購読を希望します。

住 所 〒

貴 社 名

部課名・お役職

ご 氏 名

TEL・E-Mail

2 「産業機械」の送付先変更について

締切りの関係上、次号送付に間に合わない場合がございます。何卒ご了承ください。

旧送付先

住 所 〒

貴社名

部課名・お役職

ご氏名

新送付先

住 所 〒

貴社名

部課名・お役職

ご氏名

3 「産業機械」新規送付先について

貴部署の他にも送付のご希望がございましたら、ご記入ください。

(当会会員会社は購読料が会費に含まれておりますので、冊数が増えても購読料の請求はございません)

宛 先 〒

(部数)

■ 2025年スタートいたしました。

本誌の2025年のテーマは「いのち輝く未来社会の産業機械 ～人と社会の共存をめざして～」です。会員の皆様の新技術・新製品のご紹介とともに、活躍されている方々のご紹介などを通して、産業機械業界の輝く未来を創る取り組みを披露してまいりたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

みんなの写真館



タイトル「12月の紅葉(三溪園)」

埼玉県：HIMUROさん

12月中旬に横浜の本牧にある三溪園を訪れました。三溪園は、明治39（1906）年に開園した敷地面積18万平方メートルの広大な日本庭園です。東京ドーム4個分の広大な敷地には京都や鎌倉などから集められた歴史的建造17棟が自然豊かな園内に配置されており、横浜でも有数の日本文化が体験できる観光スポットです。今年は猛暑の影響により、紅葉の時期が遅れていたことで、12月であるにもかかわらず綺麗に色づいた紅葉を楽しむことができました。梅や桜、ツツジ、紅葉など、季節によって様々な景色を見ることができるので、自然が好きな方はぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。

写真を募集しています！

あなたがみつけた素敵な瞬間をお寄せください。季節は問わずジャンルは自由です。採用された方にはお礼の品を送らせていただきます。ご応募お待ちしております！

写真データは
メール添付で
お願いします

応募については、当会ホームページの
【「みんなの写真館」の募集案内】を必ずご確認ください。
URL：<https://www.jsim.or.jp/publication/journal/>

写真データ投稿先アドレス

photostudio@jsim.or.jp

- デジタルカメラやスマートフォンの(撮影写真データ)をご投稿ください。
 - 写真には、必ずタイトル、コメント、氏名と連絡先を添えてください。
- ※写真データは返却できませんので、あらかじめご了承ください。

読者アンケート募集中

読者の皆さまのお声を募集しています。
QRコードのフォームよりお寄せください。



産業機械

No. 891 Jan

2025年1月24日印刷

2025年1月31日発行

2025年1月号

発行人／一般社団法人日本産業機械工業会 秋庭 英人

ホームページアドレス <https://www.jsim.or.jp/>

発行所・販売所／本部

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号(機械振興会館4階)

TEL：(03)3434-6821 FAX：(03)3434-4767

販売所／関西支部

〒530-0047 大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル2階)

TEL：(06)6363-2080 FAX：(06)6363-3086

編集協力／株式会社千代田プランニング

TEL：(03)3815-6151 FAX：(03)3815-6152

印刷所／株式会社新晃社

TEL：(03)3800-2881 FAX：(03)3800-3741



(工業会会員については会費中に本誌頒価が含まれています)

●無断転載を禁ず

特許庁の特許審査に貢献してみませんか？

専 門 技 術 者

募 集

知財経験
不問



*Ph.D 約150名が在籍

☆IPCCは、特許庁の登録調査機関です！

特許審査に必要な特許文献調査及び特許出願等への分類付与業務を行う
専門技術者を募集しています。



IPCC紹介動画

IPCC 専門技術者



* 処遇、募集技術分野等の詳細についてはHP参照

特許調査はIPCCにお任せください！

知財部も納得の品質

民間向け特許調査サービス

- ・特許庁審査官向け先行技術調査39年424万件の実績
- ・約1300人の専門技術者が全ての技術分野を網羅
- ・特許庁審査官向けと同じ品質の調査結果を納品
- ・優先権主張や外国出願の検討材料等として利用可能
- ・出願審査請求料の軽減が受けられる
- ・調査範囲：国内、英語、中韓、独語特許文献



一般財団法人
工業所有権協力センター
Industrial Property Cooperation Center

〒135-0042 東京都江東区木場一丁目2番15号
深川ギャザリア ウエスト3棟
採用担当：人材開発センター 開発部 採用課
TEL 03-6665-7852 FAX 03-6665-7886
URL <https://www.ipcc.or.jp/>

あらゆる液体に挑戦する



Since1947

大同 内転歯車ポンプ

吐出量
Max. 600m³/h
Min. 30cc/min

粘度 Max.
250万mPa·s

圧力
Max. 4.5MPa

DAIDO
INTERNAL
GEAR PUMP

温度
Max. 450°C



高温用ポンプ



非接触式ポンプ



高粘度・高温用シールレスポンプ



真空ポンプ (9Pa~)



Since1947

あらゆる液体に挑戦し続ける
大同機械製造株式会社

ホームページ <http://www.daidopmp.co.jp/>

本社・工場 〒569-0035 大阪府高槻市深沢町1丁目26番26号 ISO9001認証取得
TEL/072-671-5751(代) FAX/072-674-4044

東京支店 〒114-0013 東京都北区東田端2丁目1番10号 豊田ビル2階
TEL/03-3800-8255(代) FAX/03-3800-8259



大同海龍機械(上海)有限公司

ホームページ <http://www.daidohailong.com/>
上海外高桥保税区富特北路288号6楼
TEL/021-58668005 FAX/021-58668006

産業機械

特集「いのち輝く未来社会の産業機械
〜人と社会の共存をめざして〜」

2025年1月31日発行 (毎月1回20日発行第891号)

頒価 770円 (税込)